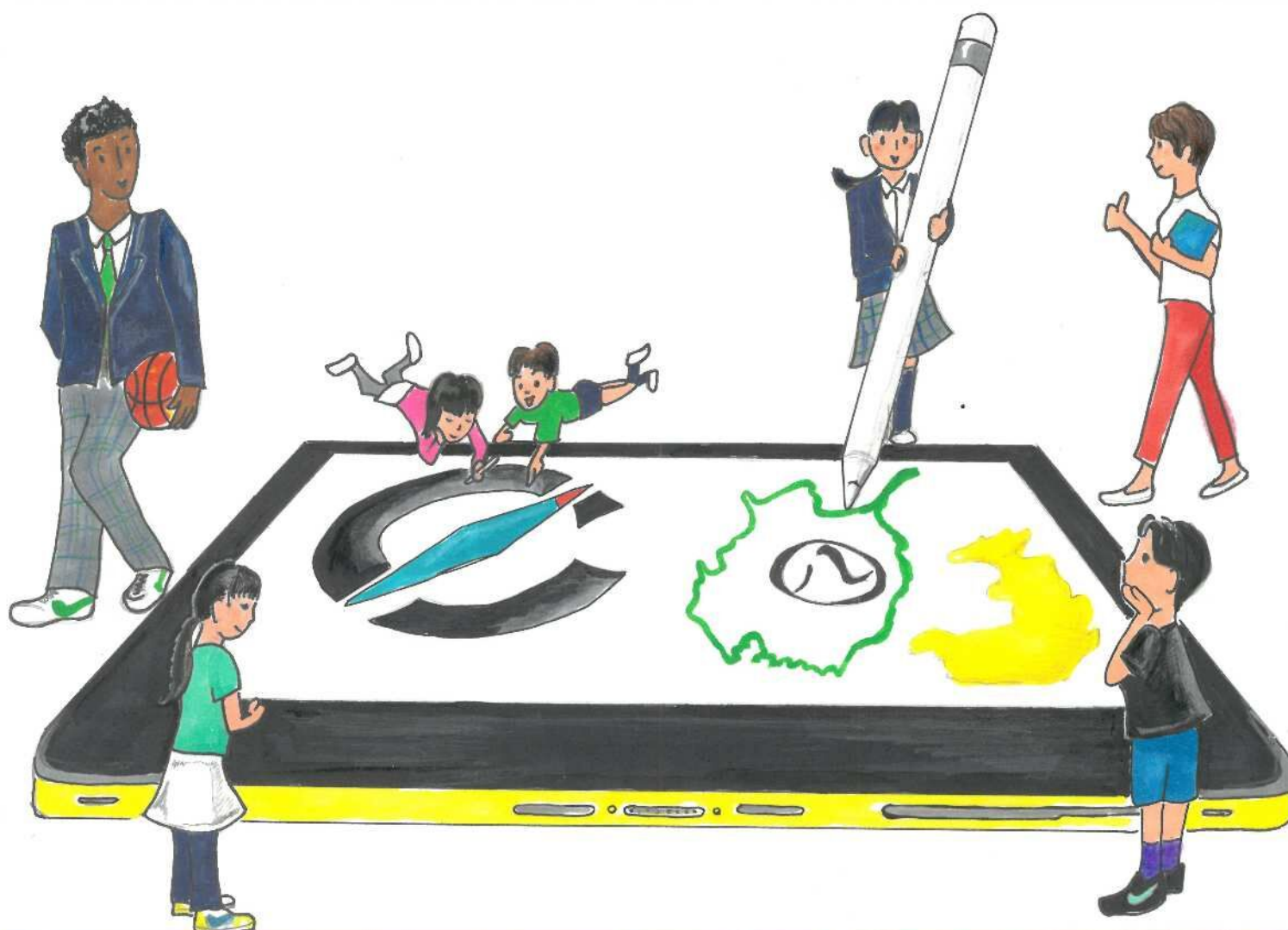


なごやの学校

2024



名古屋市教育委員会



「学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。

自立して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていきます。

名古屋市の学校園では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園や子どもたちの実態に合った教育について考え、実践を進めています。

***** も く じ *****

中学生向けキャリア教育プログラム

P. 5～8

中学校でのキャリア教育を充実させていくモデルとなるプログラムの開発のため、実社会の様々な仕事や活躍している人々、最先端の技術等、本物のヒト・コト・モノとの“であい”を通じて社会や仕事を自分事として捉え、「好き」や「できる」を大切にしながら自分らしい生き方を実現する力を育む事業です。

→ 桜丘中学校・明豊中学校

NAGOYA School innovation

つながるプロジェクト・かいぜんプロジェクト

P. 9～20

<つながるプロジェクト>

共通した教育目標や教育課題などに対し、複数の学校園の連携による学び合いを図りながら主体的に教育を展開するチーム実践に対して支援する事業です。

→ 味鋤小学校・西味鋤小学校チームはじめ10チーム

<かいぜんプロジェクト>

学校の当たり前を見つめ直し、子どもにとっても大人にとっても幸せな学校づくりを進める事業です。

→ おりべ幼稚園・楠小学校・日比津中学校・愛知小学校

特色ある幼児教育

P. 21～24

幼児の心に響く、豊かな体験を大切にした特色ある幼稚園教育を通して、幼児の健やかな成長を促しています。

→ 楠西幼稚園・西山台幼稚園

SDGs 達成の担い手づくり推進事業

P. 25～30

SDGs（持続可能な開発目標）と様々な社会の課題のつながりを知り、自らは目標達成にどのように貢献できるかを考えることができる幼児児童生徒を育成する事業です。

→ 神の倉幼稚園はじめ 6校

夢と命の絆づくり推進事業

P. 31～63

いじめや自死といった問題の未然防止の観点から、子どもたちの間に豊かな人間関係を育み、楽しく魅力的な学校づくりを推進することをねらいとする事業です。

→ 東桜小学校はじめ 115校

学校（園）名	テーマ	ページ
中学生向けキャリア教育プログラム		
桜丘中	「よき学び手」を育む ～本物のヒト・モノ・コトにふれるキャリア教育プログラムを通して～	5～6
明豊中	キャリア教育プログラム ～本物のヒト・モノ・コトとの出会いを通して、自分らしい生き方を実現する力を育む～	7～8
NSI ナゴヤ・コンパス・プロジェクト つながるプロジェクト		
味鋤小 西味鋤小	つなごうみんなの学び、つなごうみんなのころ	9
富士中 東桜小 山吹小 東白壁小	子どもたちのウェルビーイングの実現を目指す義務教育9年間の在り方 ーエージェンシーに着目した活動を通してー	10
前津中 栄小 大須小	人・地域・社会と関わりをもち、自他のよさに気づき、 自分らしく生きるライフキャリアの形成	11
常磐小 常磐幼	チーム常磐 幼小連携「架け橋」プロジェクト	12
春田小 春田幼	幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ	13
八幡中 八幡小	目指せ、八幡義務教育学校！！ ～1小1中の強みを生かして～	14
西特支 常磐小	協働的な学びや関わりの価値を感じられる児童の育成 ～インクルーシブ教育システムの構築に向けた実践を通してできるつながり～	15
港南中 大手小 稲永小 野跡小	できる喜び楽しさを実感できる児童生徒の育成 ～ICT を活用した基礎学力の定着を図る活動と学校ブロックの連携を通して～	16
上社中 上社小	よりよく生きる「上社の子どもたち」 ～9年間を貫いたキャリア教育～	17
若宮商高 若宮高等特支	商業高校と高等特別支援学校の効果的な連携による魅力ある学校づくりの推進	18
NSI ナゴヤ・コンパス・プロジェクト かいぜんプロジェクト		
おりべ幼	「笑顔あふれる おりべ幼稚園！」 ～目指せ！在園時間短縮へ！～	19
楠小	子どもとともに「夢中になって やってみよう!!」	19
日比津中	チャレンジ&スマイル ～対話とアイデアで学校は変わる～	20
愛知小	「チーム愛知」で、働きがいと働きやすさを高めよう	20

特色ある幼児教育		
楠西幼	豊かな感性と創造性の芽生えを育む ～生き物との出会い、触れ合い、共生を通して～	21～22
西山台幼	未来を見据えたキャリア教育 ～ 様々な人との交流を通して ～	23～24
SDGs達成の担い手づくり推進事業		
神の倉幼	育てよう小さな命、探そう自然の不思議	25
如意小	SDGsについて、ひとりひとりゴールを設定して夢中で探究しよう	26
弥富小	やとみっ子SDGsサミット	27
植田南小	自律して学び続ける児童の育成 ～SDGs達成の視点から、学習を調整しながら主体的に学ぶことができる児童の姿を目指して～	28
植田北小	より良い社会の実現のために、できることを考えよう ～プロジェクト型学習における探究活動を充実させる実践を通して～	29
北高	エシカル消費の輪 from 北高	30
夢と命の絆づくり推進事業（重点コース）		
東桜小	未来へ輝け！東桜っ子！！	31
山吹小	一人一人の色を大切に、ハッピーな未来をつくろう ～異学年グループ活動とキャリア教育の充実を通して～	32
丸の内中	地域を大切にする心を育みながら自己実現の喜びを感じる学習	33
当知中	未来へつなぐ平和と幸せ	34
若宮高等 特支	自らの未来をデザインする生徒の育成 ～自己理解、自己選択・自己決定、自己実現の3つのステップを踏まえたキャリアデザインを通して～	35

※各学校園のHPアドレスは令和7年8月以降変更される予定です。

夢と命の絆づくり推進事業（一般コース）

第三幼 36	春岡小 36	高見小 36	大和小 36
田代小 37	上野小 37	東山小 37	筒井小 37
大杉小 38	城北小 38	西味鏡小 38	楠西小 38
なごや小 39	上名古屋小 39	児玉小 39	枇杷島小 39
南押切小 40	比良小 40	大野木小 40	浮野小 40
比良西小 41	中小田井小 41	豊臣小 41	ほのか小 41
千成小 42	岩塚小 42	栄小 42	新栄小 42
大須小 43	正木小 43	広路小 43	八事小 43
白金小 44	伊勝小 44	高田小 44	瑞穂小 44
穂波小 45	豊岡小 45	旗屋小 45	千年小 45
白鳥小 46	大宝小 46	露橋小 46	愛知小 46
昭和橋小 47	正色小 47	万場小 47	西中島小 47
東築地小 48	中川小 48	港楽小 48	成章小 48
東海小 49	西福田小 49	福田小 49	福春小 49
桜小 50	菊住小 50	大磯小 50	春日野小 50
宝南小 51	廿軒家小 51	志段味西小 51	白沢小 51
小幡北小 52	下志段味小 52	鳴海小 52	有松小 52
片平小 53	浦里小 53	旭出小 53	黒石小 53
長根台小 54	大高北小 54	熊の前小 54	香流小 54
高針小 55	蓬来小 55	貴船小 55	引山小 55
豊が丘小 56	極楽小 56	梅森坂小 56	八事東小 56
野並小 57	山根小 57	富士中 57	北中 57
前津中 58	白山中 58	桜山中 58	沢上中 58
日比野中 59	山王中 59	昭和橋中 59	富田中 59
助光中 60	供米田中 60	高杉中 60	新郊中 60
鳴海中 61	千鳥丘中 61	鎌倉台中 61	高針台中 61
藤森中 62	上社中 62	久方中 62	平針中 62
山田高 63	工業高 63		

中学生向けキャリア教育プログラム



「よき学び手」を育む

～ 本物のヒト・モノ・コトにふれるキャリア教育プログラムを通して ～



名古屋市立桜丘中学校 校長 武藤 晃嗣

〒461-0022

名古屋市東区東大曾根町11番1号

TEL (052) 935-1368

FAX (052) 935-1437

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/sakuragaoka-j/>

事業のねらい

本校では「ナゴヤ学びのコンパス」が重視する学びの姿の中でも、特に「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」に重点を置き、学校教育目標である「『よき学び手』を育む」ために様々な実践を行っています。

その一環として、2年生のキャリア学習では、実社会において様々な活動をしている人々、最先端の技術等にふれるとともに、体験活動やワークショップを通して、将来の選択肢や可能性を広げることができるようにしています。「ナゴヤキャリアタイムサポーター」である6社の企業と協力し、「ドローンの技術と未来」「3Dモデリング・プリント」「広告プランニング」「アバター制作・モーションキャプチャー」「国際協力」「アーティスト体験」というキャリア教育プログラムを実施することで、キャリア学習を推し進め、様々な気付きから学び、自分自身を成長させ続けることができる「よき学び手」の育成に取り組みました。



事業の内容

各プログラムの内容

※ 生徒が興味のあるプログラムを選択し、各プログラム20人程度で実施

「ドローンの技術と未来」(中部精機株式会社)

ドローンについての基礎知識を学び、大型ドローン・水中ドローンを見学しました。生徒は、これらのドローンが農薬の散布や水中の探査・調査に使われていることを知ったり、実際に操縦したりすることを通して、最先端の機器・技術が社会の様々な事柄に生かされていることを実感していました。



「3Dモデリング・プリント」(株式会社 SonoSaki)

3Dモデリング・プリントについての基礎知識や将来への展望を学びました。生徒は、タブレットPC上で自由自在に形を変えたり、模様を付けたりすることができるデジタル粘土を用いて、オリジナルの作品を作ることを通して、これらの技術が映画制作などにも生かされていることを理解していました。



「広告プランニング」(株式会社ジェイアール東日本企画)

広告ビジネスの面白さや仕組みについて、「グミがキミの口に入るまで」というテーマで具体的に学び、商品名の基礎知識について学びを深めました。生徒は、これらの知識を生かし、自ら商品名についてのアイディアを出し、発表を行うことで、広告プランニングの一端を理解していました。



「アバター制作・モーションキャプチャー」(株式会社スピード)

アバター制作を行うためのソフトウェア操作の基礎知識を学び、アバターを制作しました。生徒は、アバターを活用するアイディアを出したり、モーションキャプチャーを用いて、アバターを動かしたりすることを通して、これらの技術が社会の様々な事柄に生かされていることを実感していました。



「国際協力」(キュリー株式会社)

海外(バングラデシュ)についての文化を体験したり、異文化研究についての基礎知識を学んだりしました。生徒は、実際にバングラデシュ人と交流したり、オンラインで現地の日本人に質問したりして、国際協力に必要なコミュニケーションについて学びを深めていました。



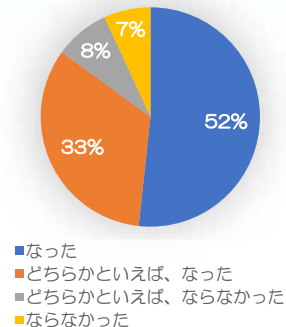
「アーティスト体験」(株式会社 LX DESIGN)

アートやアーティストについての基礎知識を知り、アートと自己表現の関わりについて学びを深め、インク、アルコール、ストロー、ドライヤーを用いたアートを体験しました。生徒は、これらの道具を自由自在に使い、自身のアートを仕上げ、作品を発表することで自己表現につなげていました。



事業の成果

各プログラムでは、生徒が最先端の技術に驚きの声を上げる姿、企業の方や教職員、仲間と学び合う姿、夢中になって取り組む姿が見られました。また、プログラム終了後のアンケート「自分の将来について考えるきっかけになりましたか」では、右グラフのような結果となりました。これは、キャリア教育プログラムを通して、「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」場面を設定し、本物のヒト・モノ・コトにふれることができた成果だと考えます。



事業のまとめ

キャリア教育プログラムで大切にしたい「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」場面を設定し、本物のヒト・モノ・コトにふれる内容を、今後は各教科・領域でも取り入れることで、キャリア学習を更に推し進め、様々な気付きから学び、自分自身を成長させ続けることができる「よき学び手」の育成に取り組んでいきたいと考えます。

キャリア教育プログラム

～本物のヒト・モノ・コトとの出会いを通して、自分らしい生き方を実現する力を育む～

名古屋市立明豊中学校 校長 梶田 勉
〒457-0863 名古屋市南区豊二丁目39番3号
TEL:052-692-1616 FAX:052-693-1456
URL:<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/meiho-j/>



事業のねらい

本校では、4分野のプログラムの中で最先端の技術等を学び、社会や仕事を自分事として捉え、「好き」や「できる」を大切にしながら自分らしい生き方を実現する力を育むことを目的としてキャリア教育プログラムを1年生で実施しました。自分が楽しくなったり、夢中になったりすることを通じて、誰かを笑顔にすることや楽しませることを考えた結果、自分も誰かの役に立てるという「つながり」の実感をもつことができ、世の中の課題を見付けたり解決策を見出したりするきっかけとなり、社会や仕事を自分事として捉えられることをねらいとしています。

事業の内容

◆キャリア教育導入授業の実施

キャリア教育とは何かや、キャリアタイムで何をしていくのかねらいなどを共有し動機づけを行いました。また、4分野のプログラムについて説明をする中で、最先端の技術に触れるだけでなく、働く人の思いを知ることによって、自分らしい生き方を考えるきっかけにしてほしいと伝えました。

◆キャリア教育プログラムの体験 ～本物のヒト・モノ・コトとの会いを通じて～

年間を通じて、4分野のプログラムの中から3分野のプログラムを体験ができるように構成し、生徒自身が興味のあるプログラムを選択できるようにしました。それぞれの分野で、最先端の技術などを企業の方から学びました。

(敬称略)

デザインと

3D プリント技術

(株式会社 SonoSaki)



ZBrush (本格的 3D 制作ソフト) を使用して、モデリング体験や、3D プリンターのソフトの使い方なども学びました。3D 技術の未来の可能性についてディスカッションしました。

ドローン技術と未来

(中部精機株式会社)



ドローンの基礎知識とドローン産業や仕事などを学びました。実際にドローンのプログラミング飛行や操縦体験を実施。ドローン活用の未来も考え、発表しました。

デジタル技術を生かした木のものづくり

(VUILD 株式会社)



デジタル技術を活用した木のものづくりについて学びました。プログラム通りに木材を自動カットする工作機械を使って、簡単な木工作品をデザインする体験ができました。

エンターテインメント産業とメタバース

(株式会社スピード)

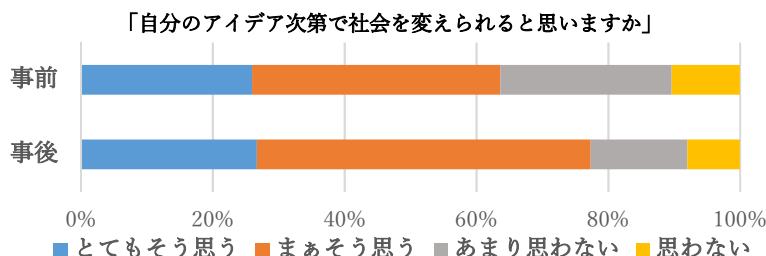


ゲームや映画、医療や製造業など様々な場面で活用されているデジタル技術産業について学びました。アバター制作やモーションキャプチャーについても体験することができました。

事業の成果

① アイデア出しの授業でアイデアを出すことの楽しさを学びました。

1学期は、自分がプログラムの中で学んだ分野や技術などを使って「誰かを笑顔にする」をテーマに4企業合同でアイデア出しをすることで生徒の自由な発想を促しました。



「誰かを笑顔にする」アイデア出しの様子

② インクルーシブ体験で、障がいのある方の課題を自分事として捉え、アイデア出しを通じて、どのような社会をつかっていきたいか考えることができました。

2学期は、視覚障がいのある方と車いすユーザーと一緒に学校内や近郊を歩くことで、障がいのある方の困りごとや課題を見付け、その解決策について企業の方と様々な視点からアイデア出しをすることができました。



視覚障がいのある方とコンビニで買い物する様子

この授業を通してどのような社会をつかっていきたいか？

生徒の感想より

- ・ハンディキャップのある人でも、楽しく行動できる社会
- ・みんなとは違うところがあっても平等にできる社会
- ・みんな違ってみんないい 一人一人の個性を認め合える社会



企業の方と車いすユーザーとのアイデア出しの様子

事業のまとめ

明豊中学校では、「つながる力で咲かせよう 笑顔の花」を学校度努力点として取り組んでいます。また、昨年度まで行われてきた「インクルーシブ体験」「防災学習」「SDGs」などの視点を学ぶ授業を総合的な学習の時間等で実施してきました。インクルーシブ体験は昨年度3年生で、防災学習は1年生で取り組んできたことです。

キャリアタイムが導入されるにあたり、学校で大切にしてきた取り組みをキャリアタイムに置き換えるということではなく、私たち明豊中学校が大事にしてきたこととキャリアタイムを通して、新しい価値を生み出す方向性でプログラムを組みました。今回のキャリア教育プログラムにおいても、企業任せではなく、協力企業の方に私たちの思い（キャリアタイムを通してどのような生徒になってほしいか）を伝えることでねらいを明確にして実施することも意識しています。

企業と協働することで、今まで大事にしてきたことを重ねるとどんな価値が生まれるのか、子どもたちの力を最大限発揮させることや、今後予測不可能な社会で活躍する未来を見据えて、子どもたちにどのような体験や考えを伝えていくことができるのかを大事にしました。

キャリアタイムは今まで大事にしてきたことの視点に、目指す生徒像を明確にし、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力のフィルターを通して取り組みをスパイラルアップしていくイメージをしています。何か新しいことをするという考えではなく、今ある資源を最大限に活用して、充実したキャリアタイムを実施していきたいと思っています。

つなごう みんなの学び、つなごう みんなのころ

名古屋市立西味鏡小学校 校長 安田 淳

〒 462-0016 名古屋市北区西味鏡二丁目526番地

TEL 052-901-3661 FAX 052-902-0643

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/nishiajima-e/>

名古屋市立味鏡小学校 校長 岡島 正樹

〒 462-0014 名古屋市北区楠味鏡三丁目126番地

TEL 052-901-6840 FAX 052-902-4721

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/ajima-e/>

ねらい

10年後、20年後に地域で活躍できる「持続可能な社会」の創り手としての子どもたちを育てるため、同じ中学校で学ぶ仲間として2校で共通の目標をもたせて育てたいと考えました。

内容

ESDやキャリア教育の視点を持ち、以下のように2校で様々なつながりを設定しました。キャリア教育の柱として、夢や目標の実現を果たすために、子どもたち自らの「目標設定」と「振り返り」を大切にして本プロジェクトに取り組みました。

児童のつながり



2校の6年児童がアイスブレイクで緊張をほぐした後、大谷翔平選手が活用したことで知られる「目標達成シート」を使い、夢や目標について共に考えました。

教職員のつながり



OPPA論(One Page Portfolio Assessment)を基にしたポートフォリオ、自分で考えながら学習を進める「けてぶれ」学習法、目標設定とその取り組み方を示す「原田メソッド」、「問いづくり」に関する内容など、2校合同で研修し、実践に生かしました。

家庭や地域とのつながり



夢や目標設定のためのワークショップや、学校行事のチラシ作成に関するワークショップなど、親と子のつながりを意識した「親子ワークショップ」を企画し、実施しました。

学習面でのつながり



【OPPシート】

教師のねらいとする授業の成果を学習者が一枚の用紙の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する際に用いるシート。

同じテーマで学校努力点に取り組み、OPPシートを活用して「子ども中心の学び」を進めました。2校で努力点の最終報告会を実施し、成果や課題について共有しました。

成果とまとめ

OPPA論を中心に「目標設定」「振り返り」を意識して取り組んだことにより、自分の学びを客観的に捉えたり、主体的に取り組んだりする子どもが増えてきました。また、同じ中学校ブロックの教職員が一体となり、共通の目標をもって2年間取り組んだことで、ブロック全体で子どもたちを育てるという意識を高めたり、互いのよい取組を取り入れ、実践に生かしたりすることができました。今後は、小中のさらなる連携をはじめ、家庭や地域への積極的な提案や発信を行うことで、地域が一体となつての「持続可能な社会」の創り手の育成を目指したいと思います。

子どもたちのウェルビーイングの実現を目指す義務教育9年間の在り方 —エージェンシーに着目した活動を通して—

名古屋市立富士中学校
校長 山村 伸人
〒461-0005
名古屋市中区東桜一丁目7番1号
TEL 052-961-0435 FAX 052-961-8619
<https://www.nagoya-c.jp/school/fuji-j/>

名古屋市立東桜小学校
校長 橋本 新
〒461-0005
名古屋市中区東桜一丁目13番1号
TEL 052-961-7877 FAX 052-961-8597
<https://www.nagoya-c.jp/school/higashisakura-e/>

名古屋市立山吹小学校
校長 傳佐 由希子
〒461-0014
名古屋市中区榑木町二丁目24
TEL 052-931-7625 FAX 052-931-6392
<https://www.nagoya-c.jp/school/yamabuki-e/>

名古屋市立東白壁小学校
校長 福井 一道
〒461-0011
名古屋市中区白壁5-7
TEL 052-931-2690 FAX 052-931-6476
<https://www.nagoya-c.jp/school/higashishirakabe-e/>

1 事業のねらい

本事業では、富士中学校ブロックの小中学校4校が連携して、子どもたちのウェルビーイングの実現を目指した取組を行っています。これまで小学校6年間と中学校3年間として捉えられていた義務教育を、9年間として改めて捉え直すことで、教育課程や指導体制等の一体的な改善につながり、それらの体系化を図ることができます。それが、子どもたちや教職員のエージェンシーを育み、ウェルビーイングの実現につながると考えています。

2 事業の内容

9年間の一体的な教育活動を実現するために、教職員の「つながり」から子どもたちの「つながり」へと段階的に取組を進めていく必要がありました。そこで、まずは「互いを知る」ことから始めました。そのために、1学期と2学期に授業参観と交流会を実施しました。1学期には、各小学校の教職員が富士中学校に集まり、中学校の授業を参観した後に、一堂に集まり交流会を実施しました。ここでの交流会は、小学校と中学校の教職員が混ざるように小グループを構成し、互いの学校について疑問に思っていることや知りたいことを出し合い対話を行いました。そして、その対話を通して互いの理解を深めました。実施後には「中学校や他の小学校の取組を聞いて視野が広がったと思う」や「小中で連携して子どもについて考える機会が増えることで、とてもよいアイデアが生まれると思いました」といった感想があり、一定の成果を得ることができたと考えています。また、2学期には、山吹小学校に小中の教職員が集まり、授業参観と交流会を実施しました。前回の交流会で「互いを知る」第一歩を進められたことを受け、2学期の交流会では「互いに協働する」ことをねらいとして実施しました。小中の教職員で小グループを構成し、本事業の目標である「子どもたちのウェルビーイングを実現する」ために何ができるのか、小中の教職員が熱心に対話を繰り返す姿が見られました。対話の中では、子どもたちのウェルビーイングを実現するために、これまで教師中心で行われてきた教育活動を「任せる」という視点で見直す必要があるといったことを話題の中心としているグループがありました。小中の教職員が同じ空間で同じテーマを考えることは、別の視点から物事を捉えることにつながり、意見の拡散と収束を繰り返し促すことで既成概念を超えた意見が生まれることを実感することができた交流会となりました。



【小中の教職員が交流する様子①】



【小中の教職員が交流する様子②】

教職員の「つながり」だけではなく、小学生と中学生の「つながり」を促進するために、6年生を対象にした出前授業を実施しました。ブロック内の全小学6年生を対象に、中学校の教員が数学の授業を実施しました。「数学のイメージが少しいたので、中学で少し気楽になると思います」「中学校の数学への不安が少なくなりました」といった感想があり、小学6年生にとって中学校へのスムーズな進学への一助にすることができたと考えています。

3 事業の成果

小中学校の教職員同士が交流する機会を設けることで、教職員同士の「つながり」が強化・深化されました。9年間を通して、子どもたちの力をより向上させるためには何に焦点化することが必要なのか、小中学生の発達段階を一つの「つながり」として意識して指導方法を考える視点を獲得することにつながることができました。また、本事業を経て、同じブロックとしてブロック内の子どもたちを育むという意識の芽生えは、教職員のエージェンシーを高めることができたと考えています。

4 事業のまとめ

学校種を超えて、教職員が「互いを知る」ことから「互いに協働する」まで至ったことは、教職員のエージェンシーを高めることに資するものとなり、一定の成果を得ることができました。今後は、「互いに創造する」段階まで発展させるに加えて、子ども同士の「つながり」を意識した取組をより充実させ、子どもと教職員の共同エージェンシーを高めていく必要があると考えています。

共通目標：人・地域・社会と関わりをもち、自他のよさに気づき、自分らしく生きるライフキャリアの形成
スローガン：自分にわくわく！みんなでわくわく！

名古屋市立前津中学校 校長 藤本 一人 〒460-0011 名古屋市中区大須四丁目8番 88 号
 TEL 052-262-7676 FAX 052-241-6029 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/maezu-j/>
 名古屋市立栄小学校 校長 松山 清美 〒460-0008 名古屋市中区栄 1 丁目 28 番 1 号
 TEL 052-221-8678 FAX 052-204-3070 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/sakae-e/>
 名古屋市立大須小学校 校長 武田 雅子 〒460-0011 名古屋市中区大須一丁目 31 番 4 号
 TEL 052-231-0122 FAX 052-204-2693 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/osu-e/>



「共通」、「交流」、
 「浸透」を軸として、
 9年間を見通した
 キャリア教育を展開し
 ています。



共通

育てたいちからを共有し、
 共通のアイコンを使用して
 います



育てたいちからを踏まえた
 共通したキャリアシート
 (左:小 上:中)



人・地域・社会と関わりをもつ探究的な学びを共通の取組
 としました。(小:PBL、中:全校探究)



共通のキーワードや取組があることで、小中がつながった実践をすることができました。



中学校有志生徒が小学生を楽しませる企画を考え、母校で授業をしました。

交流



「教育」をテーマ
 に探究している
 小学生が、中学
 校の探究学習を
 見学しました。



小学生にとっては、進学への安心感をもつことや、小中のつながりを感じる機会となり、
 中学生にとっては、学びや経験を伝える機会となりました。

<その他の取組>

- ・中学3年生が中学校での学びを小学生に英語でプレゼン
- ・小6ランチ試食会にて、中学生による学校案内や説明
- ・小学校での福祉の学びを踏まえた中学校での福祉学習
- ・月1回の小中教務主任&キャリアナビゲーターによる会議
- <今後の予定>
- ・より具体的なキャリア年間計画作成
- ・育てたいちからの見直し



浸透



年3回の合同現職を行い、取組を共有
 することで、意識の浸透を図りました。



効果測定を行い、児童生徒
 の実態把握に努めています。



学校を超えた職員の対話により、つながる取組が増えました。

つながるプロジェクト

「チーム常磐 幼小連携『架け橋』プロジェクト」



名古屋市立常磐小学校 校長 樺山 大祐
名古屋市中川区小本一丁目15番2号
TEL:052-361-8547 FAX:052-352-9444
<http://www.tokiwa-e.nagoya-c.ed.jp>
名古屋市立常磐幼稚園 園長 樺山 大祐（兼務）
名古屋市中川区小本一丁目15番2号
TEL:052-361-7133 FAX:052-361-9909
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/tokiwa-k/>



事業のねらい

本校では、敷地内に幼稚園を併設しているよさを生かし「つながるプロジェクト」として、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、研究を進めてきました。小学校の教員と幼稚園の教員合同で研修会を行ったり、授業や保育を互いに参観し合ったりと、教員同士が積極的につながり合い、幼小で同じ目標に向かうことを大切にしてきました。本年度の新1年生より、本校独自の「スタートカリキュラム（スタカリ）」を設定し、「自分で考え、自分で決める常磐の子」を最上位目標に、主体的に学び、活動できる子の育成に向けて研究を進めています。

事業の内容

○ 現職教育

愛知教育大学より講師を招き、幼稚園・小学校それぞれの職員がともに意識の共有を図るため、合同研修会を6回行いました。研究授業・研究保育を参観し合い、授業後に幼小職員混合のグループで検討会を行うなど、積極的に話し合うことで、改めて育てたい子ども像を共有することができました。

○ スタートカリキュラム

これまでのスタカリを見直し、改善したものを本年度新1年生より実施しました。子どもたちがゆるやかに小学校生活のスタートを切れるよう、日課や教室環境を工夫しました。登校後の時間を「わくわくタイム」とし、子どもたちが学校でより安心して過ごせるように、幼稚園や保育園にあったおもちゃなどを用意し、自由に遊べるようにしました。各教室後方にパーテーションで区切ったフロアマットのスペースや、1年生の教室の並びには、新たに「つながる一む」を配置し、のんびりと過ごす姿が見られました。「がくしゅうタイム」では、1コマ45分の単位時間にとらわれず弾力的に時間割を設定し、教科の枠を越えた総合的な学習内容を設定しました。

○ 交流教育

1年生活科、3・5年総合的な学習の時間における幼稚園交流を毎年行っています。子どもたち一人ひとりが幼児との接し方を考え、それを実践しながら楽しく活動することができました。



第4回合同研修会



わくわくタイムの様子



幼稚園交流(5年生)

事業の成果

教員同士が交流することで、これまで以上にそれぞれの思いや指導法などを理解することができました。スタカリを実施することにより、新1年生が入学後からのびのびと過ごし、出身園が違っていても、自由な遊びを通して様々な友達と関わることができていました。また、今年度、不登校の1年生は一人もいません。このことから、スムーズに学校生活をスタートさせることができたのではないかと考えます。

事業のまとめ

研修会や授業・保育参観などを通して、幼小の教員同士がつながり、また、交流教育を通して子ども同士がつながることができました。始まったばかりの本プロジェクトが成果を出すのは、それを経験した子どもたちがもう少し成長してからになります。長い目で見て、引き続き実践を続けながら「自分で考え、自分で決める常磐の子」を育成していきます。



幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ



名古屋市立春田小学校 校長 柏木 香子
 〒 454-0983 名古屋市中川区東春田2丁目1番243番地
 Tel 052-301-0075 Fax 052-301-3629
 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/haruda-e/>
 名古屋市立春田幼稚園 園長 細江 昭子
 〒 454-0983 名古屋市中川区東春田2丁目143番地
 Tel 052-301-3610 Fax 052-302-9519
 HP <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/haruta-k/>

1 事業のねらい

春田小学校と春田幼稚園の教職員が目指す子どもの姿を互いに理解するとともに、幼児教育における遊びを通して育まれる資質・能力と、小学校における仲間との対話を通した学習のつながりを意識した教育を行うことで、幼稚園と小学校の円滑な接続を計画しました。



【対話する様子】

2 事業の内容

○幼児と1年生との交流学习

6月に、バブリン先生を招き、小学校でサイエンスバブルショーを行いました。ただ見るだけでなく、シャボン玉の仕組みを考えたり、実際に巨大シャボン玉の中に入って体験したりしてシャボン玉の不思議について学びました。11月には、自分たちで持ち寄った、木の実や落ち葉を材料にして、おもちゃや置物などを作る「あきのこうさくパーティー」に、幼児を招きました。パーティーでは、各ブースに分かれて、児童と幼児が優しく説明し合ったり、褒め合ったりしながら一緒に遊ぶ様子がみられました。



【バブルショー】



【幼児と一緒に遊ぶ様子】

○幼稚園・小学校合同の研修会

愛知教育大学加納誠司氏を講師に招き、幼稚園・小学校の合同研修会を行いました。研修を通して「遊びから学びにつなげること」「幼稚園の教職員と小学校の教職員が連携して新たな価値を創出すること」の大切さを学びました。



【幼小合同研修会】

3 事業の成果

一緒に遊んだり、おもちゃを共に作ったりすることで、幼児や児童に新しい環境への期待感を持たせることができました。また、交流活動を行う際に、幼稚園の教職員と小学校の教職員が、子どもたちの成長や発達に関する情報を共有することで、個々の子どもに最適な支援ができるようになりました。その結果、幼稚園と小学校との連携が深まり、円滑な接続を共に考えることができました。

4 事業のまとめ

幼稚園と小学校の教職員が、子どもたちの情報を共有したり、幼児と児童が共に遊んだりすることで、幼稚園と小学校の連携が強化され、幼児と児童に加え、教職員もよりよい関係を築くことができました。

目指せ、八幡義務教育学校!! ～小・中の強みを生かして～



名古屋市立八幡中学校 校長 高橋 幸夫
〒454-0048 名古屋市中川区元中野町2丁目11番地
TEL 052-352-0355 FAX 052-352-9049
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yawata-j/>
名古屋市立八幡小学校 校長 寺田 奨宏
〒454-0035 名古屋市中川区八熊通5丁目4番地
TEL 052-361-6677 FAX 052-352-9199
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yawata-e/>

【事業の狙い】

本校は、1学年3～4学級の規模の小・中の学校です。そのため、子どもたちは、同じ学区で同じ仲間と9年間ともに生活を送り、学びます。これまでは、小学校と中学校がそれぞれの思いで、それぞれの教育活動を行っていましたが、本事業を通して**小学校と中学校が連携し、9年間を見通した指導体制の構築や、中1ギャップの軽減などを実現**します。

【事業の内容】

1 「共に語ろう、授業のこと。八幡のこと。」

小中連携に力を入れている市外のいくつかの学校で、まず大切にされていたことは「小と中の先生同士が互いを知り、尊重しあう」ことでした。そこで連携の初期である今年度はその土台をつくるために、「**互いの授業を参観する日**」を作り、**授業後に先生同士が交流できるように**しました。堅い内容だけで終始しないよう、アイスブレイク等をはさみながら、異校種の先生方にとっての共通の話題である「授業」と「八幡学区の子どもたち」について、共に考え、語り合いました。



2 「ようこそ、八幡祭へ」

中学校に進学する際の様々な変化は、小学生の子どもたちにとって大変不安なものです。これまでも、スクールランチの試食会の際に、中学校を知る機会はありませんでしたが、今年度はそれに加えて**学校行事「八幡祭」へ参加してもらう機会**をつくりました。「八幡祭」は、市内の中学校では珍しい「各々がしたいことをする文化祭」です。小学生は、劇の鑑賞やゲームなど文化祭を楽しみつつ、自身が中学生になったときにしてみたいことをイメージしながら参加してくれました。また、引率の先生方にも、卒業生の成長した姿と中学校の行事に触れていただくことができました。



【事業の成果】

連携の初期である今年度は、9年間を見通した指導体制の構築までは進みませんでしたが、「小と中の先生同士が互いを知り、尊重しあう」土台をつくることはできたと感じます。事後の職員アンケートでも、小中両方の先生方から肯定的な回答をいただきました。

- ・中学校の先生方の考えていることが**聞けたこと**、小学校のしていることを**話すことができた**ことが良かった。
- ・現状をより良くしたいという気持ちが皆にあると感じたし、それを**共有できたことがとても心強かった**。
- ・**堅苦しくなく、また負担感もあまりなく**、良い交流だった。



【事業のまとめ】

近年では、国としても、積極的に小中一貫教育を推進できるように呼び掛けています。その現れとして、2016年以降、公立の小中学校における9年間の義務教育を一貫して行う義務教育学校も増え続けています。これからのSociety5.0の時代では、様々な非認知能力をはじめとする「生きる力」がより必要とされる時代です。本事業を通して、先生や子どもたちの心理的な距離が小・中学校間で縮まり、**いずれは指導体制や教育目標なども見通しや統一感をもってつくることができるようになる**と、そこで9年間を過ごす子どもたちはより大きく成長し、また、たくさんの幸せを感じられるのではないのでしょうか。

協働的な学びや関わりの価値を感じられる児童の育成 ～インクルーシブ教育システムの構築に向けた実践を通してできるつながり～

名古屋市立西特別支援学校 校長 小笠原 仁

〒454-0828 名古屋市中川区小本一丁目 19 番 38 号

TEL 052-354-3881 FAX 052-354-3879

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/nishi-sh/>

名古屋市立常磐小学校 校長 縦山 大祐

〒454-0828 名古屋市中川区小本一丁目 15 番 2 号

TEL 052-361-8547 FAX 052-352-9444

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/tokiwa-e/>

1 事業のねらい

西特別支援学校と常磐小学校が『児童の交流』を通して「他者との関わりの中で状況に応じた行動をしたり、刺激を受けたりして日常生活に生かす」「障害のある児童との関わりの中で、多様性を認め、みんなで支え合う社会の構築を目指す気持ちを育む」ことを目指して取り組みました。

また児童だけでなく、『教職員の交流』を合同現職教育・学習会として計画的に行い、障害を理解したり、就労について知ったりすることで、特別支援教育における専門性の向上に努めることを目指しました。

2 事業の内容

つながる①「みんなつながって仲良くなろう！」

常磐小学校6年生を西特別支援学校へ招いての交流会では、常磐小学校の6年生が、西特別支援学校（1～6年生）のみんなが楽しめるような、出し物やゲームを企画してくれたことで仲良く遊ぶことができました。



交流遊びを楽しむ様子

つながる②「大人もつながろう！」

常磐小学校と西特別支援学校の教職員が集まって行った現職教育では、第一部 映画上映『チョコレートな人々』、第二部 講演会『障害のある人の就労について』を行いました。障害のある人の働き方について映画を通して学ぶと共に、講師に QUON チョコ代表 夏目浩次氏と映画監督 東海テレビ放送 報道部 鈴木祐司氏を招いて雇用主の話を聞くことで、障害についての理解だけでなく就労についても学ぶことができました。



映画鑑賞後の講演会の様子（教職員）

つながる③「就労先ともつながろう！」

常磐小学校5年生と西特別支援学校5・6年生が合同で名古屋ライトハウス港ワークキャンパス（就労継続支援 A 型・B 型）と名古屋ライトハウス明和寮へ校外学習に出かけました。障害のある人の働き方や作業内容について、実際に見たり、説明を聞いたりすることで、交流を深めながら具体的に学ぶことができました。



事業所見学の様子

3 事業の成果とまとめ

子どもたちは、交流で行った遊びや見学など、様々な関わりを通して互いの理解を深めることができました。今後も計画的に交流を行い続けることで、障害の有無に関わらず、互いに認め合ったり高め合ったりできる児童を育てていきたいと考えます。また、教職員が「障害」や「就労」について、具体的なイメージをもつことができたことで、多様性を認め合う社会に向けた気持ちを育むことができたので、今後も学校間での交流を通して全体で研鑽に励んでいきます。

できる喜び楽しさを実感できる児童生徒の育成

～ICTを活用した基礎学力の定着を図る活動と学校ブロックの連携を通して～

名古屋市立港南中学校 校長 加藤 義博
〒455-0842 名古屋市港区稲永一丁目4番39号
Tel 052-381-9337 Fax 052-383-9475
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/konan-j/>

名古屋市立大手小学校 校長 寺前 泰宏
〒455-0046 名古屋市港区大手町3丁目28番
Tel 052-652-6441 Fax 052-651-3899
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/ote-e/>

名古屋市立稲永小学校 校長 石原 和明
〒455-0842 名古屋市港区稲永四丁目6番35号
Tel (052)381-2577 Fax (052)383-9476
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/inaei-e/>

名古屋市立野跡小学校 校長 鈴木 秀樹
〒455-0845 名古屋市港区野跡一丁目4番11号
Tel 052-382-5422 Fax 052-383-9473
<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/noseki-e/>

1 事業のねらい

「勉強が分からない」「学校が楽しくない」という子どもたちが、「できるかもしれない」「楽しい」と感じられるように、ICTを活用して基礎学力の充実を図り、学校ブロックで連携して指導することで、一貫性をもって地域の子どもを育てることを目指しました。



【ICTの活用】



【港南中訪問】

2 事業の内容

1 ICTの活用と自律した学びを目指した実践

各校が算数・数学の授業でnavimaに継続的に取り組みました。navimaに蓄積される学習状況や支援方法を共有するとともに、小中で引き継ぎ、基礎学力の定着を図るための効果的な指導を目指しました。また、子どもたちが自律して学習に取り組むことを目標として、各校が授業実践に取り組みました。

2 学校ブロックの連携

小中学校9年間の教育において一貫性をもたせるために、各校が行っている授業実践を共有し、子どもの様子を互いに見合う活動をしました。具体的には、学校間でweb会議をした他、小学校が中学校を訪問し、ナゴヤ学びのコンパスを踏まえた授業を参観する「3小学校の港南中訪問」、縦割り班清掃活動や授業実践を参観する「稲永小訪問」、今後のキャリア教育の充実に向けて、キャリア教育について合同で学ぶ「キャリア教育合同現職教育」といった連携を図る活動に取り組みました。

3 事業の成果

学校教育に関するアンケートでは、「学校の授業はよく分かる」という項目で肯定的に回答する児童が増加し、「学校は、タブレットやICT機器を使うことで勉強が分かりやすくなるように努めている」という項目でも肯定的に回答する保護者が増加しました。また、連携を通して、小学校で育んだ力を中学校で伸ばすようにしたり、中学校で行うことを知り、小学校で先を見据えた指導を心がけたいという声が職員から挙がりました。ナゴヤ学びのコンパスへの取り組みやキャリア教育の指導方針についても意見交換が行われており、学校ブロックがチームとして子どもを育てる意識が共有されてきています。

4 事業のまとめ

学校ブロックで連携することで、子どもたちの9年間を考え、子どもたちを中心に据えた考えが学校間でより深まりました。今後も子どもたちができる楽しさを実感して成長できるように、4校でつながりを深めていきたいと考えます。

よりよく生きる「上社の子どもたち」 ～9年間を貫いたキャリア教育～



名古屋市立上社小学校 校長 井本 孝男

〒465-0025 名古屋市名東区上社五丁目1002番地
TEL (052) 703-5421 FAX (052) 703-5473
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kamiyashiro-e/>

名古屋市立上社中学校 校長 西尾 理恵

〒465-0051 名古屋市名東区社が丘四丁目301
TEL (052) 704-2235 FAX (052) 704-2329
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kamiyashiro-j/>

小中一貫教育のモデル実践について

「ナゴヤ学びのコンパス」を基とした教育を、小学校と中学校の9年間において一貫して推進するため、中学校ブロックにおいて目指す子どもの姿を共有するとともに、地域の特色や子どもたちの実態に応じて軸となる取組を決め、教育目標に向けた教育活動に小・中学校を通じて取り組むことを目指し、令和6年度から上社小学校・上社中学校において小中一貫教育のモデル実践を行っています。

事業の概要

令和5年度はつながるプロジェクト校として、共通努力目標「思いを伝える・受け止める子ども」に決め、9年間を貫いたキャリア教育に取り組んできました。

令和6年度は、小中一貫教育のモデル実践ブロックとして、次年度に向け、中学校ブロックにおいて目指す子どもの姿（小中一貫教育のグランドデザイン等）、軸となる取組である「キャリア教育」の9年間を貫いた実践例の作成に向けて取り組みました。



モデル実践スケジュール

令和6年 7月～	有識者や他校からのアドバイスを受け、モデル実践ブロックの活動を開始
9月～	小学校、中学校それぞれの教職員が互いの授業参観を開始
12月	小学校、中学校の教職員が合同で対話会の開催（次年度の「中学校ブロックにおいて目指す子どもの姿」等について対話）
令和7年 2月～3月	令和7年度の「中学校ブロックにおいて目指す子どもの姿」の決定
	令和7年度の学校努力点の決定
	令和7年度の「キャリア教育の9年間の実践例」の決定



事業のねらい

若宮商業高等学校（以下、商業高校）に併設という形で、今年度若宮高等特別支援学校（以下、高等特支）が開校されました。そこで、商業高校と高等特支両校の生徒にとって魅力ある学校にするために授業や行事、日常生活の場面で連携を深めています。

合同授業「美術」

商業高校1年生と高等特支1年生の生徒を対象にイラストレーションを描き、グループの友達と比較し、それぞれの作品のよさを伝え合う活動に取り組みました。商業高校と高等特支の生徒が互いに「とても可愛らしく描けているね」「こんなに上手に描けるなんてすごいね」と称賛の言葉を掛け合い、理解を深めている姿も見られました。



若宮商業
高等学校



若宮高等
特別支援学校

名古屋市立若宮商業高等学校
名古屋市立若宮高等特別支援学校
商業高校と高等特別支援学校の効果的な連携による魅力ある学校づくりの推進

合同授業「保健体育」

商業高校1年生と高等特支1年生の生徒を対象に男子は「卓球」女子は「バドミントン」と「バスケットボール」に取り組みました。商業高校と高等特支の生徒が一緒にチームで練習や試合に臨みました。授業後には、よりよい合同授業を目指し、両校の教員で話し合い、成果と課題を明らかにしました。



学校行事「体育祭」

体育祭では、商業高校と高等特支の生徒が一緒になり、台風の目や玉入れなどの競技に取り組みました。競技が終わると互いの頑張りを称賛したり、ハイタッチをして喜んだりする姿が見られました。両校の職員も競技に参加し、学校全体で体育祭を盛り上げました。



学校行事「文化祭」

舞台では、商業高校は様々な部活動からの発表、高等特支は学年合唱を披露しました。また、各教室では、それぞれの学年や学級からの企画があり、両校生徒が共に楽しむ様子が見られました。



「若宮連携推進委員会」

両校の職員が参加し、カリキュラムコーディネーターを中心に効果的な連携方法について検討をしています。また、日々の授業や行事、日常生活の中で交流できる部分について意見交換をしています。



名古屋市立若宮商業高等学校 校長 山口 大二

名古屋市立若宮高等特別支援学校 校長 岡部 啓

〒468-0046 名古屋市天白区古川町 76

Tel 052-891-2176 Fax 052-891-2476 (商業高校)

Tel 052-899-0538 Fax 052-899-0539 (高等特支)

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/wakamiya-ch/> (商業高校)

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/wakamiya-h-sh/> (高等特支)



「笑顔あふれる おりべ幼稚園！」～目指せ！在園時間短縮へ！～

名古屋市立おりべ幼稚園 園長 松尾育子

〒462-0864 名古屋市北区織部町1番地の9 TEL 052-914-2806 FAX 052-916-1024

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/oribe-k/>

本園では、少ない職員体制の中、時間を生み出す取組として、当たり前と思ってやってきたことの見直しを行いました。週案、朝や帰りの打合せ、行事の精選など、大事なことや削減できることを教職員で話し合うことで、チーム力の向上にもつながりました。

また、職員室の環境整備も行っています。場所が狭く、使っていない棚があった場所を、夏休みの長期休業を利用し、教職員全員で片付けをし、空いたスペースにぴったり合う机を購入しました。使いづらかった場所が快適な環境になり、資料を広げて見ながら効率的に作業ができるようになりました。今後は、教材庫の整理をしていきます。物が探しやすく、戻しやすい教材庫の環境をつくることで、今までかかっていた時間を削減し、働きやすい職場環境につなげていきたいです。



【話し合いの様子】



【改善前】



【改善後】

子どもとともに「夢中になって やってみよう!!」

名古屋市立楠小学校 校長 前田智子

〒462-0005 名古屋市北区池花町309番地 TEL 052-901-3226 FAX 052-902-4734

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kusunoki-e/sp/index.html>

本校では、教職員の「笑顔で過ごす学級・学校づくりをしたい」「子どもの学び続けたい！を育てたい」の実現のためには、教職員が学校運営を主体的に取り組むことができる時間と気持ち的なゆとりが必要と考え、働き方を見直し、子どもも教職員も学び続ける学校を目指して、取り組んできました。

①時間の確保

会議時間短縮・回数精選、年間計画や週間課程、年間授業時間数の見直し等を実施し、業務に取り組む時間の確保に取り組みました。また、校内研修を見直し、自分の必要とする研修を選択して受けることができるようにしました。

②仕事の効率化「ハタカク・スイッチ ON!仕事を効率化して定時退校」

大野大輔氏（教育アドバイザー）を講師として迎え、自らの働き方を振り

返ったことをきっかけにして、互いの時短法を共有してよりよい働き方について話し合い、各自の意識改革を図りました。

③「対話」で学校づくり

学校評価で出てきた課題を解決するため、そして働きやすい職場にするために教職員で対話し、次年度の年間計画案を作成、教職員みんなが参画してよりよい学校づくりを目指しています。今年度トップダウンで生み出した時間を、来年度は、ボトムアップで時間の使い方や業務改善等を考え、よりよい働き方改革が進むよう取り組んでいきたいと考えています。



【働き方を振り返る研修の様子】

チャレンジ&スマイル ～対話とアイデアで学校は変わる～

名古屋市立日比津中学校 校長 松藤耕造

〒453-0037 名古屋市中村区高道町2丁目2番36号 Tel 052-481-8335 Fax052-461-3548

<https://www.nagoya-c.ed.jp/hibitsu-j/>

本校では、「チャレンジ&スマイル～対話とアイデアで学校は変わる～」をテーマにかいぜんプロジェクトに取り組んでいます。「当たり前を見直し、小さなことからやってみる」「職員の対話・ゆとり・成長を大切にす」の2つを重点にしています。

今年度は、「ゆとりをもって対話ができる場所+時間をつくる」ことについて、かいぜんミーティング(対話)を設定しました。「職員室のブラインドをロールスクリーンにすれば雰囲気も変わる」「職員室にBGMを流したい」「ばらばらの鍵を一つにまとめると便利」「昨年度改善したことも見直したい」など、対話から生まれたアイデアや意見をもとに、働きやすい環境づくりを進めています。



【かいぜんミーティングの様子】

「チーム愛知」で、働きがいと働きやすさを高めよう

名古屋市立愛知小学校 校長 三田美乃里

〒454-0803 名古屋市中川区豊成町1番35号 Tel 052-351-5301 Fax 052-352-9379

<https://www.nagoya-c.ed.jp/school/aichi-e/>

今年度は学校教育目標を「自ら向かう楽しい学び なかまにつくる笑顔の学校」と改め、教職員も主体的に学び合い、互いに助け合うチームとなることを目指しました。

働きやすさを高める取組 プロジェクト会議

年5回、教職員の困り感を基に話し合いをしました。業務の効率化や児童指導に関する悩みの解消を図り、一人一人が抱える負担を軽減することにつなげました。



落ち葉や
草が多くて
大変

【校内の環境整備】



朝は
教室で
児童を
迎えたい

【Teamsを使った打合せ】



単学級の
担任や
点検者が
大変

【たよりの発行回数と内容の見直し】

働きがいを高める取組 タ打ち（タ方の打ち合わせ）、教職員が講師で行う校内研修会

「タ打ち」では、連絡事項の伝達だけでなく、指導者用タブレットの画面共有機能を使って努力点実践授業の予告をしました。夏季休業中には、教職員の力量向上をねらう研修会を行いました。



タ打ち[努力点実践の予告]



研修会 [学級づくり]



[道徳の授業づくり]



[学級で役立つアクティビティー]

今後も、教職員一人一人の困り感に寄り添い、児童への指導・支援に役立てることができるよう、働きやすさや働きがいを高めていながら改善を続けていきます。

豊かな感性と創造性の芽生えを育む ～生き物との出会い、触れ合い、共生を通して～



【楠西幼稚園】

3 歳児



「フカフカだよ」

4 歳児



「フニフニしてる」
「柔らかいね」

5 歳児



「大根は食べないんだ」



「水をきれいにしなね」



名古屋市立楠西幼稚園 園長 堀 智重子

〒462-0061 名古屋市北区会所町 8 2 番地の 1

TEL : 052-902-2250 FAX : 052-902-6849

URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kusunoki-w-k/>

取り組みのねらい

本園は、自然環境に恵まれ、幼児は園庭の芝生を思い切り走ったり、チョウやザリガニなどの生き物を捕まえたりして、心と体を動かしながら遊びを楽しんでいる姿が見られます。このような環境の中で、幼児が興味、関心をもっている身近な昆虫などの生き物との関わりを通して、幼児の心の動きに注目し、生き物と触れ合い飼育する中で、幼児の心が豊かに育ち、豊かな感性と創造性の芽生えにつながるよう取り組んでいます。

取り組みの内容

1 “じっと” 見る 3 歳児

さなぎがチョウになったことに気付いた 3 歳児が、「チョウチョになった、触りたい」と言いましたが、怖がってなかなか触れない様子でした。そこで、教師が虫かごの蓋をあけると、チョウが窓際にとまりました。それを見た幼児は、自分のタオルを持ってきてチョウの下に敷きました。近くにいた幼児も同じようにタオルを敷き、一緒にチョウをじっと見ていました。タオルを近づけては「フカフカだよ」「お花のジュースもどうぞ」などと声を掛けるなどして何度も試しては、しばらくじっと見ていました。

2 「フニフニしてる」気付いたことを伝え合う 4 歳児

4 歳児が「先生！幼虫見つけた！」とアゲハチョウの幼虫が付いた木の枝を持って見せに came。友達が「どこにいたの」と尋ねると、ミカンの木の前へ案内をしてくれました。そして、近くで見ていた幼児も幼虫を捕まえて虫かご二つが幼虫でいっぱいになりました。後日、大きくなっていく幼虫の姿を見て「大きくなった」「緑のがいる」とその変化にも気付き始め「柔らかいね」「フニフニしてる」と発見したことや触れて感じたことを伝え合う姿が見られました。

3 「校長先生の言ってた通りだ」確かめてみる 5 歳児

園の池で捕まえたザリガニが死んでしまった時「ザリガニが死んでる！けんかして食べたんだ。」「(昨日入れた)大根は食べないんだよ。だってここ(図鑑)に書いてないもん」「エアーポンプを付けるって書いてある。エアーポンプって何？」と教師に聞いたので、教師は「何だろう」と受け止め、小学校に生き物に詳しい先生がいることを知らせました。そして、小学校の校長先生の所へ行き、話を聞くことにしました。すると『けんかをしないためにゆっくりできる場所があること』『エアーポンプの代わりに、水をきれいにすること』ということを見ながら教わりました。幼児らは校長先生の話真剣に聞き、幼稚園に戻ると、他の友達に一生懸命話しました。翌日、教師が衣装ケースを用意すると、「これなら狭くないね！」と、図鑑を見な



「お花のジュースもど
うぞ」



「また、見つけたよ」



「お引越ししようね」



【幼小合同研修会の様子】



【カブトムシの話を聞く様子】



「チョウ、かわいいね」

がら園舎裏に行って、植木鉢、枝や石を拾い衣装ケースに入れました。衣装ケースにザリガニを移動させると、ザリガニがすぐに植木鉢に入りました。「ザリガニが入った！」教師が「ゆっくりできる場所があるって言ってたもんね」と言うと、幼児は「ここはくつろぎ場だね」「校長先生の言ってた通りだ」と話していました。

取り組みの成果

1 事例を通して見えてきた、生き物との関わりで育まれるもの

3歳児は、教師を頼りにしながら生き物に出合うことで、驚きや発見、面白さなど感情の幅が広がりました。幼児が自分の思いや願いをもち、思いつくまま、生き物に関わることで親しみを感じていきます。3歳児は『生き物と出会い、親しみをもつこと』が大切と分かりました。

4歳児は、今までの経験や友達との対話から、生き物がどこにいるか情報を集め、満足いくまで収集し、じっくり観察したり触れ合ったりします。その中で、変化や不思議さに気付き、生き物の生態の知識を広げ、より生き物に親しみをもちます。4歳児は『生き物を満足いくまで収集し、触れ合うこと』が大切と分かりました。

5歳児は、生き物との出会いや死を通して、様々に心が動き、自分の思いや知識、経験したことから考えたことを友達や教師に表します。そして、思いの実現に向けて、聞く、調べる等の方法を経て、そこに関わる幼児みんなで試行錯誤しながら実現します。その過程で、生き物への親しみが愛着となり、飼育の仕方について友達と一緒に聞いたり調べたりしながら知識を深め、様々な人と関わりながら、生き物と共生していきます。5歳児は『生き物に愛着をもち、共生すること』が大切と分かりました。

2 小学校教育とのつながり

近隣の小学校の教諭らとの合同研修では、幼児が生き物との関わりを通して、思いを実現する過程は、生活科の学習につながることや、生き物に関心をもち、実体験を伴って関わった経験は、小学校の学習において、身近な自然を自分との関わりで捉え、主体的に働きかける態度を養う基盤となることを学びました。

3 保護者や地域との関わり

生き物と関わる姿を、ドキュメンテーション等で保護者や地域の方々に発信したことで、幼児が実体験を通して、心を動かし学んでいくことを理解していただきました。そのため、保護者は幼児と一緒に観察したり、時には生き物と一緒に触れたりしながら、子どもの思いに共感していただくことができました。

また、地域の方が育てたカブトムシや自宅の庭にいた大きな幼虫を幼稚園に持ってきて下さり、生き物との出会いが広がったり、思いや考えを聞いてもらったりしながら、更に生き物に興味、関心をもつことができました。

取り組みのまとめ

生き物との関わりの中で幼児が心を動かし、自分なりの思いや願いを実現しようと試行錯誤する中で、様々な人と関わり、さらに知識や感情の幅を広げながら新たな気付きや願いをもつことが豊かな感性や創造性の芽生えを育むことにつながるということが分かりました。これからも幼児の心が動くような体験を大事にしながら、様々な人と関わり豊かな感性と創造性の芽生えが育まれるよう取り組んでいきたいです。



未来を見据えたキャリア教育 ～ 様々な人との交流を通して ～



名古屋市立西山台幼稚園 園長 勝又 靖代

〒465-0094

名古屋市名東区亀の井二丁目41番地

TEL: 052-701-5286

FAX: 052-701-5181

URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/nishiyamadaik/>

取り組みの概要

今年度、本園は、中学校ブロックで連携し、キャリア教育を核とした「つながるプロジェクト」を進めています。「自他を尊重し、未来に活躍できる子」を育てたい子ども像として共有し、人間関係形成・社会形成能力、自己発揮・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を幼稚園から中学校まで一貫して育むことができるように取り組んでいます。

自他を尊重するためには、まずは自分が大切にされていると実感することが必要であると考えます。それを基盤とし、幼児が様々な人との交流を通して主体的に遊ぶ中で様々な資質・能力が育まれるよう、積極的に取り組みを展開しています。

取り組みの内容

小学生との交流

名東小学校の5年生が、総合的な学習の授業で『笑顔満開計画』を企画し、園児が笑顔になれるように考えた遊びで2回交流をしました。2回目の11月は、園児が遊びを選んで楽しめるよう、お店屋さん形式で射的やモグラたたき、金魚すくい等の遊びを考えてきてくれました。最初は緊張していましたが、5年生が遊び方を分かりやすく教えてくれたり、手を添えたりして優しく寄り添ってくれたので、安心して楽しく遊びを進めることができました。そして、だんだんと笑顔があふれ会話も弾む姿へと変わっていきました。遊び終わると「すごいね～」「よくがんばりました」「グッド、OK!」等と書かれたカードをもらい、喜んでいました。

交流後には、「全部楽しかった」「ずっと優しくしてくれて、うれしかった」等と交流の感想を学級で伝え合ったり、楽しかったゲームを紹介し合ったりしました。また、お礼の気持ちを伝えたくなり、手紙を書いて、どのように届けるのかを相談し、後日届けることにしました。

その後、楽しんだ遊びを思い出しながら再現して作り、友達と一緒に遊び始めました。2回の交流を通して5年生に親しみを感じ、刺激を受けたことを、早速自分たちの遊びに取り入れる子どもたちでした。



〔モグラたたきコーナー〕

折り紙の飾り
も付けよう

ぎゅっと
回してみ
るといい
よ



〔お礼の手紙〕

うまく
飛ぶ
かな



〔射的コーナーの再現〕

600点を
ねらうよ

現職教育 ～キャリア教育について～

神丘中学校のキャリアナビゲーターをお招きし、近隣の私立幼稚園と合同で現職教育を行いました。幼児は日頃の主体的な遊びの中で「アイデアを出す」「思ったことや考えたことを伝える」「役割をもつ」「目的に向かって試行錯誤する」「人の役に立つ」等を経験しており、それがキャリア教育で育成したい資質・能力につながっていることに気付くことができました。



高校生との交流

“こんなものがあっていいな”というニーズに応じて木を使い様々なものを作ってくれる、市立工芸高等学校の「もの作りサークル」の高校生が、お店屋さんごっこに使える遊具を作成して持ってきてくれました。贈呈式で高校生にインタビューする時間を設けると、「板をきれいに合わせるところが難しかったです」「危なくないように、滑り止めを付けました」「高速道路を守る仕事がしたいです」等と答える高校生の話を真剣に聞いていました。そして、自分たちのために心を込めて一生懸命に遊具を作ってくれたことを知るとともに、憧れの気持ちを膨らませる機会となりました。

以来、毎日のように、いただいた愛情たっぷりの遊具を使って、いろいろなお店屋さんごっこをしたりマイクスタンドにしたりして、楽しく遊んでいます。



〔贈呈式〕

〔ケーキ屋さんごっこ〕

〔アイドルごっこ〕

日々の保育の中で ～おいもパーティーをしよう！～

園で育てたサツマイモを収穫した年長児から、「前の大きい組さんに呼んでもらったみたいに、おいもパーティーをしたい」「小さい組の子にも食べてもらいたい」と声が上がりました。そこで、学級のみんで準備することや必要な役割について相談し、おいもパーティーを開くことにしました。会場の飾り付け、看板、招待状、おみやげ作り、材料の買い物等、学級の仲間や教師と対話をしながら時間をかけて準備をしました。席札は、年中児一人一人の好きなものを聞きに行き、名前の周りに描いて丁寧に作りました。当日は、友達同士で声を掛け合い、年中児に優しく接しながら張り切って係の仕事を進めていました。帰りにくじ引きでおみやげをもらった年中児は、折り紙で作った飾りなどが入った袋を大事そうに抱えて笑顔で保育室に戻っていききました。

振り返りでは、「喜んでもらえてうれしかった」「係の仕事が楽しかった」「みんなで力を合わせてがんばった」等と感想を伝え合ったり、「大成功!」と拍手をして喜びを共有したりしていました。共通の目的に向かって一人一人が自分の役割を果たしながら学級の友達と協力して取り組み、充実感や達成感を味わうことができました。



〔会場の飾り付け〕

〔クッキング中〕

〔パーティーの最中〕

〔おみやげ渡し〕

取り組みのまとめ

取り組みを通して、自分が大切にされていることや、人に喜んでもらえたうれしさ、自己有用感等を実感したり、感謝や憧れの気持ちをもったりすることができました。今後も、様々な人との温かい交流を積み重ねていきたいと思います。そして、そこで得られた多くの学びとキャリア教育との関連を園内で共有し、小学校へしっかりとつなげていきたいと思っています。

育てよう小さな命、探そう自然の不思議



名古屋市立神の倉幼稚園 園長 豊本 実
〒458-0812 名古屋市緑区神の倉四丁目210
TEL 052-876-6490 FAX 052-877-9869
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kaminokura-k/>

事業のねらい

本園は、四季折々に様々な動物・昆虫が来るだけでなく、近くには、手つかずの自然が残る「熊野社」があり、年間を通して自然を身近に感じることができる。幼稚園で何度か散歩に出かけ、季節の移り変わりを感じたり、直接自然に触れたりして遊ぶ体験を積み重ねている。このような地域の特色や園の環境を生かし、身近な生き物や自然に心を寄せて、大切にしようとする気持ちをもつ幼児を育てたいと考える。幼児が身近な自然に触れ、心豊かな経験ができるようにしていきたい。

事業内容

① 「ダンゴムシ・レースを開催しよう」(4・5歳児 6月中旬)

エコパルなごやの「名古屋市環境学習プログラム」「環境サポーター派遣プログラム」にある「ダンゴムシレース」を行いました。園児たちは、あらかじめプランターの下や草木の茂みの中からダンゴムシを見付けレースの準備をしました。当日は、パズルを使ってダンゴムシの生き方を説明していただいた後、模造紙に書いた土俵を使ってレースを行いました。この体験を通して、ダンゴムシに対して興味・関心が高まっただけでなく、「他の生き物でもレースが見たい」と言うなど、身近な生き物にも目が向くようになりました。

② 「ヤゴを羽化させよう」(全学年 6月下旬)

「ピオトープ・ネットワーク中部」の副会長さんから、ヤゴをいただきました。そのヤゴが「羽化」するまでの様子を観察しました。暑さや外敵から守るために、職員室に水槽を準備し、興味がある園児が自由に出入りすることができるようにしました。羽化の瞬間は見られませんが、羽化が近づく様子を観察したり、羽化したあとの抜け殻を見たりすることを通して、園児たちは、生きものについて、さらに関心を高めることができました。

③ 「おいもほりをみんなで楽しもう」(3～5歳児 10月下旬)

6月に5歳児が植えた「サツマイモ」の収穫をしました。収穫する際に出た、サツマイモのツルを使って「綱引き」をしたり、葉っぱで「大きさ比べ」をしたりと、サツマイモそのものだけでなくそれに関わるものでも楽しむことができ、収穫をみんなで楽しむことができました。



パズルを使ったダンゴムシの説明を聞く園児



職員室に置いた水槽(左)
羽化したトンボ(右)



サツマイモを収穫する園児



サツマイモのツルで綱引きをする様子

事業の成果

ダンゴムシ、ヤゴ、サツマイモなど身近な生き物や自然と触れ合う活動を通して、園児たちは、テーマにある「小さな命の大切さ」、「自然の不思議さ」に気付くだけでなく、「もっと知りたい」といった新たな意欲の高まりも見られるようになっていきます。また、毎日の園生活の中で、身近な生き物に対して愛着をもつ友達同士で、生き物の様子を伝え合う姿が見られています。

事業のまとめ

今後も身近な生き物や身近な自然を「自分とつながりのあるもの」と感じられるような環境構成や言葉掛けを心掛け、人間性豊かな子どもを育てていきたいと考えています。

SDGs について、ひとりひとりゴールを設定して夢中で探究しよう



名古屋市立如意小学校 校長 大西 健一
〒462-0007 名古屋市北区如意三丁目 131 番地
Tel : 052-902-2661 FAX : 052-902-4691
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/nyoi-e/>

事業のねらい

本校では、本年度より3年生から6年生が、学年を解体して、水曜日の6時限を「にょい探究タイム」として、SDGsに関する内容の探究学習を行っています。その探究学習の中で、社会の課題を解決するために活動している様々な人に話を聞いたり、探究活動に携わってもらったりすることを通して、よりよい社会の形成に携わる態度を育成し、子どもたちが、SDGsの担い手となることを目指しています。

事業の内容

① 【本物に触れる ～ゲストティーチャーによる授業～】

水曜日の6時限は「探究学習」ということで、3年生から6年生が体育館に集まり、ゲストティーチャーから多くのことを学びました。SDGsに関連して、防災のことや都市開発のこと、ジェンダーについてなど、たくさんのことを学びました。高校生と交流して学んだ日もありました。



【防災について話す講師】

② 【異学年で学ぶ ～探究学習・にょい探究タイム～】

2学期からは、SDGsの17の目標の中で、興味のあるものをひとつ選び、「問い」と「ゴール」も自分で考えて異学年でグループを組み、探究学習を進めていきました。SDGsについて学べるテキストを参考にしたり、他の学校での探究学習の実践を参考にしたりしながら、探究学習を進めています。



【探究学習の様子】

事業の成果

SDGsを通して、探究的な学習を進めることができたこと、また異学年でグループを組んで学習できたことは、とても大きな成果があったと考えています。他にも、たくさんのゲストティーチャーを招待して、本物に触れることができたこと、子どもたちが自ら「問い」と「ゴール」を設定して学べたことなど、多くの成果がありました。アンケートでは約96%の子どもが、「にょい探究タイムが楽しい」と答えています。

事業のまとめ

社会の課題を解決するために、子どもたちがSDGsをより身近に感じ、よりよい社会の形成のために自分たちに何かできることはないか、考えるきっかけづくりになりました。今後も、探究学習をさらに充実したものになるよう、子どもたちが自ら問いとゴールを設定し、自律して学んでいけるような環境を整えていきたいです。

やとみっ子SDGsサミット



名古屋市立弥富小学校 校長 瀬瀬 孝
〒467-0047 名古屋市瑞穂区日向町 4-23-1
TEL 052-831-8134 FAX 052-834-9193
URL <https://www.yatomi-e.nagoya-c.ed.jp>



事業のねらい

本校では、総合的な学習の時間を通して、課題を追究していく学習に取り組んでいます。5年生では、身近な問題に目を向けながら17のカテゴリーの意味を知り、SDGsについて学びます。各カテゴリーの課題解決のために自分にできることを考え、行動していく活動を通して、SDGs達成の担い手となっていけるような教育活動に取り組んでいきたいと考えました。

事業の内容

1 SDGsに対する考え方や取組方法について知る

それぞれのカテゴリーについて探究していくためにSDGsに取り組む施設や企業を訪問したり、外部講師として「コメダ珈琲店」と「シーライフ名古屋」をお招きしたりして、SDGsの取組について学習しました。「コメダ珈琲店」では、コーヒーかすを再利用して消臭剤を作る体験をして、自分たちにもできることを考えるきっかけとなりました。



【コーヒーかすで消臭剤を作る様子】

2 やとみっ子SDGsサミット

今まで学習してきたことを基に自分たちにできることを考え、学習発表会「やとみっ子SDGsサミット」を開催し、グループに分かれて、全校児童や保護者の方に発信しました。訪問してきた施設や企業のSDGsの取組について発表したり、自分でできる取組を発表したりして、「自分たちだけでなく、弥富小学校全体でSDGsに取り組んでいきたい」という気持ちを高めることができました。



【学習発表会で発表する様子】

事業の成果

「あなたは、SDGsの取組について知り、自分にできることはないか考えることはできましたか」という質問に対して、「考えるようになった」と90%以上の児童が回答しました。記述のアンケートでは、「家族とも一緒に取り組んでいきたい」と、学習発表会で発信したことで、家族や友達にもSDGsの取組を広めていきたいという意識の高まりが見られました。

質問：あなたは、SDGsの取組について知り、自分にできることはないか考えることはできましたか



事業のまとめ

身近な施設や企業のSDGsの取組を知ることで、SDGsがより自分事となり、自分たちにできることを考えるよいきっかけとなりました。また、学習発表会を通して、全校児童や保護者に知らせることで、「もっとSDGsを広めたい」と行動しようとする意識を高めることができました。今後も、SDGs達成の担い手となっていけるように取り組んでいきたいと思ひます。

自律して学び続ける児童の育成

～SDGs達成の視点から、学習を調整しながら主体的に学ぶことができる児童の姿を目指して～



名古屋市立植田南小学校 校長 酒井 正幸

〒468-0051 名古屋市天白区植田三丁目301番地

TEL 052-805-5711 FAX 052-802-7536

URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/ueda-s-e/>

事業のねらい

本校では、総合的な学習の時間を中心に、4年生では「環境」、5年生では「福祉」、6年生では「国際理解」をテーマに学習しています。「見通す」「実行する」「振り返る」の3段階のプロセスを基本に授業の展開を構成し、課題解決に向けて、児童が自ら学習を調整しながら主体的に学ぶ姿を目指しました。

事業の内容

1 SDGsってなに？（4年生の実践）

SDGsすごろくやSDGsかるたなどの参加型の学習をグループで行い、環境への興味をもち、課題意識を高めました。また、身近な企業に校外学習に出掛け企業によるSDGsの取り組みを学びました。



【SDGsゲームをする様子】

2 福祉について考えよう（5年生の実践）

ソレイユプラザなごやに校外学習に出掛け、車いす体験や視覚障害者・高齢者等の疑似体験、ユニバーサルデザイングッズを活用した人権学習を行いました。また、社会科の学習との関連で(株)名古屋木材の出張授業を受けたり、パラスポーツ指導員を招いた授業で、障害者スポーツを体験したりして、楽しみながらSDGsについて学びを深めました。



【車いす体験の様子】

3 うえみなスローガンを作成しよう（児童会の実践）

児童会役員が本年度のスローガンを「あいさつ さべつなし がんばる おもいやり」の頭文字から「あさがお」に決定し、ペットボトルのキャップや雑紙を活用し、掲示物を作成しました。全校児童にもPRL、SDGsへの関心を高めました。



【スローガン作成の様子】

事業の成果

課題解決に向けて、ゲストティーチャーなど外部の教育的資源の活用、見学・体験・交流を含めた課題解決型の学習を行ったことで、SDGsへの理解を深めました。「主体的に学ぶことができる」というアンケートでは、95%の児童が肯定的な回答をしました。

事業のまとめ

自分たちの生活の中には、SDGsに対する様々な視点があり、自分事として考えることができるようになりました。今後も、自分なりの考えをもって自分たちにできることを行動に移すことができ、自律して学び続ける児童の育成を目指していきます。

より良い社会の実現のために、できることを考えよう
～プロジェクト型学習における探究活動を充実させる実践を通して～



名古屋市立植田北小学校 校長 小出 辰夫

〒468-0002 名古屋市天白区焼山二丁目 1302 番地

TEL:052-806-1601 FAX:052-806-1616

URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/ueda-n-e/>

事業のねらい

本校では、子どもが発した問いを課題として設定し、充実した探究活動を進めるプロジェクト型学習に全学年をあげて取り組んでいます。より良い社会の実現のために、自分ができることは何かを考えることをねらいにして生活科や総合的な学習の時間に取り組みました。

事業内容

① 「防災について考えよう」(4年生の実践)

大雨や地震などの災害に備え、わたしたちが普段からできることは何か、実際に災害が起こったときに、誰がどのような働きをするのかについて、「ヒト・モノ・コト」の視点で調べました。起震車による地震体験、ポンプ車によるプールの水の排水、照明車や災害対策本部車による災害時の働きについて体験活動を通して学びを深めました。



【SDGs との関わり】



【陸前高田市に派遣された職員の方の出前授業】



【起震車による地震体験】



【ポンプ車による排水作業の見学】

② 「福祉について考えよう」(5年生の実践)

「誰もが幸せに生きるために」これを合言葉に福祉について学習しました。車椅子体験やパラスポーツ体験から始まり、パラアスリートとの交流、天白特別支援学校との交流など、様々な人々との出会いを通して、社会の中にはまだまだ改善すべき点が多いことに気付きました。



【SDGs との関わり】



【パラスポーツ体験】



【パラアスリートとの交流】



【天白特別支援学校との交流】

事業の成果

「ヒト・モノ・コト」との出会いや数々の体験活動によって、子どもたちは、「もっとくわしく知りたい」と追究意欲を持続させて活動することができました。特に多様な人と出会い、努力や願い、思いにふれたことで、これから自分ができることは何かを考える姿が見られました。

事業のまとめ

今年度の取り組みから、社会には自分たちが気付かなかった様々な問題があり、より良い社会の実現のためには、問題に気付くこと、知ること、自分のできることを考えることが大切であると実感することができました。今後も SDGs 達成への理解を深め、目指す子ども像の育成に尽力します。

エシカル消費の輪 from 北高



名古屋市立北高等学校 校長 船越 一裕

〒462-0008 名古屋市北区如来町 50 番地

TEL 052-901-0338 FAX 052-902-1596

URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/kita-h>



キチカさん

事業のねらい

本校では、国際理解コースとユネスコ委員会の生徒を中心に、SDGs 達成に向けて様々な活動を行っています。例年行っているフェアトレード商品の校内販売に加え、昨年度からアップサイクルにも取り組み始めました。生徒たちがアップサイクルを通して、ごみ問題を知り、エシカル消費について学ぶことはもちろん、ワークショップを行って、地域社会に広めることをねらいとしました。

事業の内容

①アップサイクルを体験

段ボールアーティストを講師にお招きし、講演会とワークショップをしていただきました。段ボールを探しに訪れた世界の国々のお話を聞いた後、生徒たちは各自で持ってきた段ボールから財布を作りました。普段ごみとして捨ててしまう段ボールを、素敵な財布に変えられることを知る貴重な体験となりました。



【財布を制作している様子】

②アップサイクルを知り、エシカル消費を考える

アップサイクルに取り組んでいる地元企業の方に、アップサイクルとごみ問題についての勉強会を開いていただき、エシカル消費について考えることができました。また、SDGs を自分ごととしてとらえることができるワークショップもしていただき、なぜ自分たちが SDGs 達成に向けて行動することが必要なのかを学ぶことができました。



【勉強会の様子】

③ワークショップの開催

11月上旬に名古屋市立大学で行われたなごや未来ポケットのイベントで、小中学生向けのワークショップを開催しました。アップサイクルについて説明し、小中学生とともに段ボールからコインケースを作りました。



【ワークショップの様子】

事業の成果

アップサイクルの体験や学びを通して、生徒たちはアップサイクルの意義を理解することができ、ワークショップでは自信をもって子どもたちに教えることができました。ワークショップ後の感想では、「自分たちで教える難しさと楽しさが同時に学べた」「アップサイクルの魅力をたくさんの人に伝えられてよかった」といったものがあり、本校の生徒たちにとって貴重な体験になっただけでなく、参加者にとっても有意義な機会となったと考えます。

事業のまとめ

アップサイクルの活動を通してエシカル消費の視点をもつことができ、「つくる責任 つかう責任」について深く考えることで、地域社会ともつながることができました。今後も、SDGs 達成のために行動できる、そしてそれを周りに伝えていくことのできる生徒の育成を目指します。

夢と命の絆づくり推進事業（重点コース）

未来へ輝け!東桜っ子!!



名古屋市立東桜小学校 校長 橋本 新
〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目13番1号
TEL 052-961-7877 FAX 052-961-8597
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/higashisakura-e/>



事業のねらい

ここ数年、児童は自分にできることを必死に考え、実践してきました。コロナ禍によってさまざまな制限がある中でも、「できない」「やらない」ではなく、自分たちでできる方法を模索し、工夫した行事やイベントを創り上げてきました。そんな児童の前向きな思いや主体的な気持ちを、学校の行事やイベントはもちろん、自己の生き方や将来の道しるべに生かすキャリア教育につなげたいと考え、本実践に取り組みました。

事業の内容

様々な企業と連携した取組や学校全体を巻き込んだプロジェクトを実施しました。

「おもてなしの心プロジェクト」(3年生) 連携企業: コメダ珈琲店

モーニングや店内作りといった「おもてなし」の心を学び、働く人の思いや願いを知りました。また、実際に店員と客の立場に分かれてロールプレイ(コメダ珈琲店協力のもと小倉トーストを提供)を行ったりして、働くことの楽しさと難しさを実感しました。子どもたちが調べたことをまとめた新聞を近隣の店舗に掲示していただきました。



「学校ブックオフプロジェクト」(4年生) 連携企業: BOOKOFF

査定体験を通して、査定の仕方を学びました。また、BOOKOFFが0円の本でも買い取る理由を考え、店舗運営や循環型社会について理解を深めました。学んだ査定方法を活用し、校内に「東桜小 BOOKOFF」を設立し、他学年や保護者も参加して、実際に本を買い取ったり販売したりするリユースショップ体験を行いました。



「スポーツのカプロジェクト」(5年生) 連携企業: 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ

プロバスケットボールチーム名古屋ダイヤモンドドルフィンズの選手から夢を叶えるまでの苦難や努力の体験談を聞きました。また、パラアスリートの方から車椅子バスケットを始めたきっかけやその魅力を聞きました。子どもたちは、実際に選手と一緒にバスケットや車椅子バスケットの体験をしたり、自分の夢を叶えるための計画を考えたりしました。



「届けよう!『服の力』プロジェクト」(6年生) 連携企業: ユニクロ・GU

GUの方に講演いただき、難民の問題について学び、一緒に子ども服を回収して、世界で服を必要としている人々へ送るプロジェクトに参加しました。子どもたちは、いつでも・何をすれば多くの服が集められるのかを考え、校内だけでなく、周辺の小学校や幼稚園、保育園などにも協力をいただきました。



「未来へ輝け!東桜小プロジェクト」(全学年)

子どもたちの主体的なアイデアから、全校でリストバンドと「顔はめ」パネルを作ることにしました。子どもたちが企画から製作まで全て関わりました。「やりたい!」と思ったことを、最後までやり遂げたことで、充実感と達成感にあふれた笑顔を見ることができました。



事業の成果

6月と11月にアンケートを実施したところ、「自分から進んでチャレンジしているか」という項目が3.0%から3.7%に上昇するという結果が得られました。また、「今までにない取組ができて学校がもっと好きになった」「いろいろな人と関わって将来が楽しみになった」「後輩にも引き継いでいってほしい」などの声が上がりました。企業の方など様々な方と触れ合う中で、社会性を育み、自己肯定感を高めることができたと考えます。

事業のまとめ

多くの人と積極的に関わったり、主体的な活動を取り入れたりしたことで、子どもたちの中に、「学校が楽しい」「未来が楽しみ」「自分のことが好き」といった感情が芽生え始めています。東桜小を含む中学校ブロックでは、子どもたちのウェルビーイング(心身ともに健康で満たされた状態)を目指しています。今後も、主体的に何かをしたり、多様な他者と関わったりする中で、ウェルビーイングな状態を維持していきたいと思います。

一人一人の色を大切に、ハッピーな未来をつくろう

～異学年グループ活動とキャリア教育の充実を通して～



名古屋市立山吹小学校 校長 傳佐 由希子
〒461-0014 名古屋市東区榑木町2丁目24番地
TEL 052-931-7625 FAX 052-931-6392
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yamabuki-e/>

事業のねらい

第4期名古屋市教育振興基本計画「コンパスぷらん」では、対応すべき教育課題として、「子どもたちが自分らしい生き方を実現する力を育てていくためのキャリア教育の充実」を挙げています。本校がこれまで行ってきた、異学年グループによる「ふれあい活動」をキャリア教育の観点で充実させることで、子どもたちが安心して自分らしさを表現できる学校を目指していきたいと考えました。

事業の内容

○ 本物の「ヒト・モノ・コト」に出会うキャリアゼミナール

保護者に講師を依頼し、仕事について話をしていただく「キャリアゼミナール」を実施しました。身近な社会で活躍している保護者（ヒト）から仕事の話（コト）を聞いたり体験（モノ）したりしました。子どもたちから、「将来の夢について考えるきっかけになった」などの感想が挙がりました。社会や仕事を自分事として捉え、考えることができました。



【保護者による仕事の話】

○ 「フェスタオル」プロジェクト

キャリアフェスティバルで自分らしさを生かして取り組むことができるようフェスタオル作りを行いました。デザインは子どもから募集し、全校児童の投票を経て決定しました。タオルの白地部分は、布用絵の具を用いて自分らしさを表す「色」と「方法」で染色しました。自分らしさの象徴であるフェスタオルを手に心を一つにして取り組むことができました。



【タオル染めの様子】

○ 「自分らしさ」を生かして参画するキャリアフェスティバル

ふれあいグループごとに、職業体験ブースや遊ぶお店を企画し、運営しました。当日は、子ども同士が交代してお客さんをするだけでなく、保護者にも参加していただきました。学校の職員以外の大人と関わる中で、他者と協働する資質・能力を育むことができました。



【店を運営する子どもたち】

事業の成果

事後アンケートでは「あなたは絆が大切だと思いますか」という項目で、「とてもそう思う」と回答した児童が73%から82%に上昇しました。また、自由記述欄では、「普段あまり関わらない人たちと協力し、仲を深めることができた」「一つの行事に様々な学年で協力することで、新たな発見があった」等、「他者と協働することのよさ」に触れる回答が多く見られました。

事業のまとめ

キャリアフェスティバルを中心に、キャリアゼミナールやフェスタオルプロジェクトなどの取組を関連付けながら行っていくことで、自己理解や人間関係形成などキャリア形成において必要な力や子どもたちが自分らしい生き方を実現する力を育むことができました。



【デザインを募集して制作したタオル】

次年度以降も、自分らしい生き方を実現するための「キャリア教育」の実践を継続し、子どもたちが安心して自分らしさを表現できる学校を目指していきます。



地域を大切にすることを育みながら自己実現の喜びを感じる学習



名古屋市立丸の内中学校 校長 鈴木 健
〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目9番2号
TEL: 052-211-3251 FAX: 052-204-2560
URL: <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/marunouchi-j>

事業のねらい

名古屋市が掲げる「ナゴヤ学びのコンパス」では、学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことを目指す理念を掲げています。この理念に基づき、本校では、地域社会との関わりを通して、生徒が自己実現の喜びを感じることができるようにしたいと考えました。地域貢献活動を通じて、地域での自分の役割や貢献を実感し、自己肯定感と達成感を得ることができる生徒の育成を目指しました。

事業の内容

1 名古屋の観光地調べ

生徒が、テーマに沿った学習の一環として、地元である名古屋についての伝統文化学習を深めました。特に名古屋の観光地については、事前に調べ、実際に行った後と比較することで、観光地についてより深い学びを得ました。地元の歴史や文化を学ぶことで、自分のルーツや地域の成り立ちを深く理解することができました。



【市内分散の様子】

2 小松市立丸内中学校とのWEB交流

生徒が、地元である名古屋についての伝統文化学習を深めていたところ、石川県小松市にも「まるのうち」という地域と小松市立丸内中学校という同じ学校名が存在していることに気づきました。そこで、お互いの伝統や文化を伝え合うことができれば、より地域についての学習が深まるのではないかと考え、WEBでの交流をしました。お互いの地元である「まるのうち」に対する関心がより深まるよい機会となりました。



【WEB交流の様子】

3 小松市立丸内中学校と実際に交流

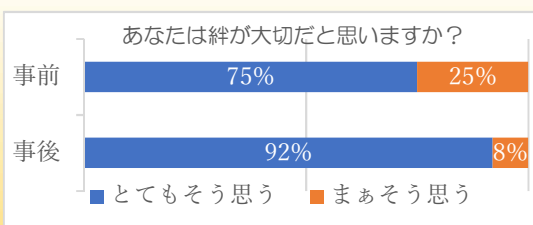
WEB交流をしていく中で、お互いの地域や学校についてもっと知りたいという気持ちが生徒内で芽生え始め、小松市立丸内中学校に訪問して、直接、意見交換やこれまで学んできたことの報告をしたいという意見が多く出ました。生徒の主体的な意見を尊重し、「まるのうちサミット」を小松市で開催しました。地域や修学旅行で学んできたことをクイズ形式で問題を出し合うなど、より高いレベルでの自己実現の喜びを得ることができました。



【小松市立丸内中学校との交流の様子】

事業の成果

「あなたは、絆を大切だと思いますか」という項目で、全体的に数値が上昇しました。地域について深く学ぶことで、地域における自分の役割を実感することができました。また、他校との交流を実現するなど主体的に活動してきたことの達成感を得ることもできました。



事業のまとめ

事前に学んだことと発表や報告を通して、意見交換することで学習が深まり、地域に関する興味・関心が強くなりました。さらに生徒の主体的な意見を実現することとなる直接的な交流をすることで、より高度な自己実現の喜びを感じることができました。これからも生徒が主体となって、地域を大切にしながら、自己実現の喜びを感じることができる学校を目指していきます。

未来へつなぐ平和と幸せ



名古屋市立当知中学校 校長 志村 虎三
〒455-0804 名古屋市港区当知一丁目 608 番地
TEL 052-381-9880 FAX 052-383-9477
URL <https://www/tochi-j.nagoya-c.ed.jp/>



【光のカーテン】

事業のねらい

本校では豊かな心を育成したいと考え、生徒会と協力して挨拶運動や人権に関する活動、行事などを企画し実践しています。また、生徒一人一人が参画できるように工夫をして、身近な平和や人権について考え、自分や仲間を大切にする思いを養いたいと考えました。

事業内容

① 願いの光るドーム・折り鶴アートづくり(5月)

「Pray for Peace Collection 2024in 沖縄」という追悼イベントで使われる「光のカーテン」や折り鶴のアート作品を生徒が作成しました。それが当日飾られ、慰霊式典に活用されている様子などを紹介しました。平和を守る勇気、思いやりについて考えることができました。



【生徒が作成した折り鶴アート】

② いじめ、平和、人権についての講話(11月)

「目に見えない大切なものを描く」ことをテーマに絵画作品の制作と展示を行っている田川誠さんと深澤慎也さんに来校していただき、ハンセン病や人権について講演をしていただきました。



【講演を聞く生徒達】

講演で感じたことや考えたことを、学級や学年、学校全体で共有し、田川さんと深澤さん、家庭や地域にも思いや願いを発信しました。身近にある当たり前の「平和」や「幸せ」に目を向け、日常の生活や仲間や家族、身近な人が改めて大切なものだと感じたり、自分にできることは何かを考えたりして、命の絆について意見を交換しました。

事業の成果

「誰かの役に立っていると思いますか」という質問に対して、「とてもそう思う」と答えた生徒が、事前の26%から事後では34%に増えました。また、「絆は大切だと思いますか」という質問に対して、「とてもそう思う」と答えた生徒が、事前の29%から事後では45%に増えました。生徒の振り返りには、「平和や命、人権について改めて考えることができた」や「物事に対して前向きに考えたり、行動したりしてみたい」などの記述が多く見られました。

事業のまとめ

今回の活動を行うことで、生徒は達成感を味わい、より主体的に物事について考えることができました。また、「いのち、国籍、性別、障害」について理解を深め、生徒が自分の平和や幸せについて考えることができました。平和と幸せについて生徒一人一人が考えることで、思いやる心を育み、いじめ未然防止の意識を高めることができました。

自らの未来をデザインする生徒の育成

～自己理解、自己選択・自己決定、自己実現の3つのステップを踏まえたキャリアデザインを通して～



名古屋市立若宮高等特別支援学校 校長 岡部 啓
〒468-0046 名古屋市天白区古川町76番地
TEL 052-899-0538 FAX 052-899-0539
URL <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/wakamiya-h-sh/index.html>
公式 SNS(Instagram) 【アカウント名】 wakamiya_h_sh0538



Instagram



学校ウェブサイト

事業のねらい

本校は若宮商業高等学校と併設したインクルーシブ教育推進校として、今年4月に開校しました。本校では、学校教育目標を「多様な人となつながら、新しい時代の産業人として社会に貢献できる人財を育成する。」とし、「交流しながら共に学ぶ教育」と「企業と連携した実践的なキャリア教育・職業教育」を軸とした教育活動を進めています。3年間の学校生活を通して、生徒が「なりたい自分」になるまでの過程を「自己理解」「自己選択・自己決定」「自己実現」の3段階で整理して実践に取り組んでいます。初年度にあたる今年度は、「自己理解」の段階として、自らのよさや強み、課題を理解させることで、今後の取り組みの基礎となる資質・能力を育みたいと考えました。

事業の内容

○ 生徒が自分のよさや強みに気付くための取り組み

「自立活動」の時間において、カードゲームやワークシートなどの教材を用いた自己理解につながる学習を行いました。ICT機器の活用や自己評価と他者評価を組み合わせた評価方法の工夫等によって、生徒が自分のよさや強みなどに着目しやすくなり、自己を肯定的に捉えることができました。

○ 生徒が労働場面における自らの行いを理解するための取り組み

校内実習や専門コース体験等を通して、労働場면을想定した体験を積み重ねました。専門コース体験では、自立活動の取り組みを生かしつつ、労働場面における自らの行いを常に振り返り、キャリアパスポートとして記録し蓄積することで、中・長期的な視点からも自分の成長を実感することができました。

事業の成果

本事業を通して、「自己理解」をテーマに実践を進めてきました。生徒が自らについて、課題というマイナスの側面だけではなく、よさや強みというプラスの側面から捉えられるようになってきました。また、自己を肯定的に捉える習慣が身に付いてきたことで、クラスメイトや学年の友達など、他者に対しても肯定的な関わり(ポジティブアプローチ)をする場面が多く見られるようになりました。

事業のまとめ

自分のよさや強みに気付くことを重視した「自己理解」の取り組みが、他者を肯定的に捉えようとする姿勢につながるようになりました。これからの共生社会の中で活躍していく「人財」となる上で、これは必要不可欠な要素であると考えます。今後も生徒が自らの未来を主体的にデザインしていくことができるように指導・支援していきます。

夢と命の絆づくり推進事業（一般コース）

第三幼稚園 つながる・広がる・育ち合う ー多様な人との関わりの中でー



お風呂ごっこを友達と一緒に楽しむ3歳児



幼小交流活動で新たな考え方を思い付く5歳児

本園は努力点テーマを「つながる・広がる・育ち合う」とし、実践に取り組んでいる。3歳児では、周りの幼児がしていることを見て、同じようにすることを楽しむようになった姿から、周りの幼児と同じ場で同じことができるように環境を整えたり、教師が一人一人の思いを受け止めながら一緒に楽しんだりしたことで、友達とつながる気分や、関わって遊ぶ楽しさを味わえるようになりました。

5歳児では、継続的な小学1年生との交流活動を通して、様々な人や考えに触れて親しみや憧れ、つながりを感じたりすることで、刺激を受け合いながら自分の興味や関心を広げたり、新しい見方や考え方が生まれたりして、自分たちの生活や遊びに生かすことができる機会となりました。

春岡小学校 地域とつながる 未来とつながるⅡ ～春岡小 つながるプロジェクト～



地域とのつながりが強い春岡小。昨年度は児童が企画した「街角サポーターに感謝する会」を行った。今年度は、「地域の人ともっと交流したい」という児童の願いが、さらに広がるよう、学区在住の世界で活躍する芸術家との交流を実現させ、夢を叶えるすばらしさと本物の芸術を体感する機会を創り出すことを児童と共に目指した。



ワークショップの様子

講演会では、好きなことを見付け、本気でやり続けて夢を叶えるすばらしさだけでなく、職業にしてみても大変さがあることを子どもたちは感じ取っていた。ワークショップでは、個々の感性を生かし、思うまま、自由に表現する活動そのものを、どの子も楽しんでいた。制作した作品は、児童会役員の「クリアファイルにして思い出に残したい」という発案から、後日、オリジナルグッズとして全校児童に配付した。今後も、地域と交流を深め、春岡学区を愛する人の輪を未来につなげていきたい。

高見小学校「た・か・み」をめざそう！高見っ子ー楽しい学校、考える学校、みんなの学校づくりー



学びの成果を報告する児童の様子

本校は、学校教育目標として、「た・か・み」の文字を取って、「楽しい」学校、「考える」学校、「みんなの」学校づくりを掲げている。その柱の一つとして、「自分に合った方法で学ぶことができる授業づくり」に取り組んでおり、自分の学習のペース、習熟度に応じて、子どもたちが自分の課題や学習活動を選択して取り組む「たかみスタディタイム」を授業時間の中に取り入れている。「たかみスタディタイム」では、自分の興味・関心に合わせて、熱心に学習に取り組む子どもたちの姿が見られる。また、1・6年、2・5年、3・4年の児童がペアで、グループを形成して活動する時間も設けている。7月には「高見っ子まつり」を開催し、各クラスでゲームやクイズなどの出し物を考え、ペアグループで教室を回って出し物を楽しんだ。授業や行事など、様々な場面で学校の全員が協働し、より楽しい学校づくりを目指している。

大和小学校 笑顔を広げる大和っ子！～仲間や地域とのきずなを深める活動を通して～



縦割り班活動



学区クリーンウォーク

本校は、地域とのつながりが強く、学区の方々も学校行事に対して協力的である。また、異学年で仲良く遊ぶ姿もよく見られる。そこで、コロナ禍で行うことができなかった異学年や地域との交流を再開することで、仲間や地域とのきずなをより深めることができる縦割り班活動や学区クリーンウォークに取り組んだ。縦割り班活動では、児童会が中心となり、学年の垣根を越えてみんなが仲良くなることができることを考えて活動することで、仲間とのきずなを深めることができた。また、学区クリーンウォークでは、高学年の児童が地域の方と一緒に学区の清掃活動をしたことで、地域とのきずなを深めることができた。

児童が主体的に活動することで、児童自身が達成感を味わうことができ、心から笑顔で仲間や地域と関わることもできた。

田代小学校 みんなを大切にする学校にしよう！～ペア活動の充実を目指して～



1・6年のペアで作った旗



手つなぎだるまさんが転んだをする様子

今年度、本校ではINGキャンペーンの一つとして、ペア活動を中心に豊かな人間関係を育み、楽しく魅力的な学校づくりに向けて取り組んでいる。1年と6年、2年と4年、3年と5年のペア学級を作り、児童会やペアの上学年が企画を考えた。

運動会では、「運動会の歌」の振り付けをペアの上学年が考えて、一緒に練習して本番で披露した。田代まつりでは、児童会企画のゲームをペアで楽しんだ。

ペア交流活動として、ペア活動時に意識したい合言葉をペア学級ごとに考えて、合言葉と児童の手形を入れた旗を作った。また、交流タイムでは、「手つなぎだるまさんが転んだ」や上級生が片足けんけんで行う「増やし鬼」など、児童がルールを工夫して考え、ペアで楽しく活動する姿が見られた。

ペアや学級の友達のことを考える姿が増え、みんなを大切にする学校に近づけた。

上野小学校 「音読発表会」を通して、自分のよさを発揮しようとする児童の育成



ワークショップの様子

本校では、キャリア教育の一環として「音読発表会」を設定している。「音読発表会」では、「友達と創り出す楽しさを味わい、協力して発表しようという気持ちをもつ」「自分の役割や責任を果たし、集団の中で自分を生かすこと」の育成を目標にして練習に取り組んだ。

今年度は、児童を対象にコミュニケーション能力や自己表現力の育成に長年取り組んでいる劇団員をお招きし、ワークショップを行った。ワークショップでは、体をリラックスさせて、伸びやかな声を出す方法や遠くまでせりふが伝わる方法などについて教えていただいた。

音読発表会を通して、一つの作品を創りあげる喜びを実感したり、友達の新たなよさを発見したりすることができた。

東山小学校 将来の自分をイメージしよう！～可能性が広がるキャリア教育の充実を目指して～



e-Library 活用の様子



6年生が表現した作品

中学校ブロックのキャリアナビゲーター（スクールカウンセラー）と連携し、長所や好きなことから将来の自分をイメージさせたり、中学校生活への見通しをもたせたりするなど、高学年でのキャリア教育を進めている。

また、読書活動を通して様々な生き方や考え方に触れたり、進学先や職業について調べたりできるよう、「School e-Library（スクール イーライブラリー）」を配備し、キャリア教育の充実を目指している。

こうした実践や環境整備によって、今年度の作品展では可能性の広がった将来の姿を、6年生の児童が塑像にありありと表現し、他学年の児童や保護者、地域の方々などに学習成果として発表した。

筒井小学校 「笑顔輝く 筒井っ子」～笑顔で登校 笑顔で下校～



採用された5年生案



採用された6年生案

本校では、児童会を中心に、児童の思いや考えを形にし、視覚に訴えることを通して、児童同士がつながりを感じることができるようになることを目指してきた。昨年度より、代表委員会の児童が揃いのユニフォームを着て、校門または土間の前に立ち、「おあさご運動」と題した挨拶運動に取り組んできた。今年度は代表委員会の児童だけでなく、全校児童みんなが学校を温かい雰囲気にするための活動に参加しているという意識をもたせるため、全校児童から仲間との絆、INGにつながるデザインを募集して筒井小学校オリジナルタオルを制作した。各学年からデザイン案を募り、全校児童による投票によって載せるデザイン案を決定した。各学年から募った中で一番投票数が多かったデザイン案が採用されることや一人一人の手に渡るということで、全員が制作に関わることができ、充実感や満足感を味わうことができた。

大杉小学校 笑顔と挨拶いっぱいの大杉っ子



朝の挨拶運動の様子

本校では、代表委員を中心に児童がデザインした「のぼり」を掲げて、朝の挨拶活動を行っている。友達や職員、地域の方と挨拶を交わすことで、いじめのない学校を目指している。「笑顔いっぱい挨拶いっぱいの大杉小」を合言葉に、月初めには挨拶に関する週目標を設定することで、校内では挨拶を交わす声があちこちで聞かれている。ペア学年との異学年交流を取り入れており、顔見知りになったペアの子を見かけたら挨拶するなど、校内の挨拶が増えることで児童の笑顔が増えている。今年度は保護者が中心となって、名古屋グランパスのマスコットであるグランパスくんを学校へ招き、挨拶運動を行った。職員や地域の方とともに心を込めた挨拶活動をするを通して、全児童が笑顔でいじめのない学校生活を送ることを、自分たちで目指すようになっている。

城北小学校 自分も仲間も大切にしよう！



児童会が企画を紹介している様子



提出された
マッチングアニマル

本校の児童は、ペア学年での活動を様々な場面で行うことで、相手の気持ちに寄り添う力を養い、「自分も仲間も大切にする子」を目指して、日々の生活を送っている。

児童会は、ペア学年で交流が行えるように様々な企画を立てている。その一つが、不特定多数の児童と交流することができる企画「マッチングアニマル」である。これは、動物を印刷した色画用紙を半分に切ったものを児童一人一人に配付し、動物の種類と画用紙の色の両方がマッチする相手を探すゲームである。児童は自分の相手を探すために様々な学級を訪れ、初対面の相手に対しても積極的に声を掛け、マッチする相手を探していた。その際に、「初めまして」「時間をとってくれてありがとう」という声や、マッチした相手と手をつないで提出に行く姿などが数多く見聞きされた。

今後も、ペア活動を通して、「自分も仲間も大切にする子」に育ってほしい。

西味鏡小学校 ～ひらこう！ まなびのとびら つなごう！ みんなのころ～



YO!YO!YOSUKE 氏



山崎武司氏

今年度、「対話」を学びの中心に据えて、全ての教育活動を展開している。特に、運動会においては、「みんなで盛り上がる運動会にしたい」「うちの人も楽しめる運動会にしたい」という子どもの思いを基に計画を立てた。まず、名古屋グランパスのスタジアムDJ、YO!YO!YOSUKE 氏を講師に迎え、「盛り上げるコツ」として、「大きな声を出すこと、笑顔・エール(応援)をすること、普段からポジティブな気持ちでいること」が大切であると教わった。当日は、「にじのつき応援フラッグ(手ぬぐい)」を使って、全校で応援した。また、元中日ドラゴンズ選手の山崎武司氏を講師に迎え、「夢をかなえるためには、努力はうそをつくこともあるけれど、毎日コツコツやることが大切。できないと感じたときには、前の段階に戻ってやるのが成長への近道」と教わった。子どもは、思いを実現するために少しずつやろうという思いをもった。

楠西小学校 笑顔いっぱい心つながる楠西小学校



スローガン旗



ワイワイロード

本校では、伝統的な取組として、毎年度児童会スローガンを設定し、様々な活動に取り組んでいる。今年度は、昨年度の活動内容を振り返り、スローガンを継続し、児童だけでなく保護者や地域の方々にも周知することで、学校中に笑顔があふれ、心のつながりがさらに深まる活動に取り組んでいきたいと考えました。

児童会が中心となりスローガン旗を作成し、毎日掲揚台に掲げています。また、年間を通して活動している縦割り活動「ワイワイ活動」では、グループ毎にスローガン達成に向けた話し合いを行い、一人一人の行動目標を考え、その目標を記入したポスターを作成しました。全校児童が毎日通る廊下を「ワイワイロード」と命名し、その壁面に全グループのポスターを掲示し、児童会スローガンを周知することで、『笑顔いっぱい心つながる』学校づくりに取り組んでいます。

なごや小学校 「～したい」を大切に！ひとりでも仲間とでも、進んで考動する児童の育成 ～夢に向かえる「ドリームブック」の活用を通して～



低学年用のドリームブック



4年生 保護者との対話

昨年度本事業で購入した、夢をもつすばらしさ、夢に関すること、世界の国に関すること、偉人等に関わる書籍について、今年度は蔵書を増やし、児童が「～について調べたい」「次は～をやってみよう」と目標や夢の実現に向けて前向きな態度をもつことができるようにした。この移動式本棚は全学級を巡回し、一人でも多くの児童が本を取ることができるようにしている。また、4年生の児童は購入した書籍や様々な業種の保護者との対話を通して、なりたい自分のイメージを描く「夢の地図づくり」を行い、自分の人生に向かって行動していくことができるようにした。授業に参加した児童は「自分の夢が見つかった」「今日から自分の夢につながることを一つ一つ努力したい」と、夢に向かう気持ちをもつことができた。

上名古屋小学校 笑顔で広がる「あったか上名」



挨拶運動の様子 (左)
のぼりのデザイン画 (右)



あいさつゾーン

本校では、いじめのない学校づくりの合い言葉として、「あったか上名」を掲げている。これまでも、児童会役員を中心にした朝の挨拶運動を行ったり、気持ちのよい挨拶を呼び掛けるTV放送をしたりするなどの活動を行ってきた。

今年度は、さらに挨拶あふれる学校とするために、のぼり旗とたすきを製作することにした。デザインについては全校児童で考えた。また、児童が気持ちのよい挨拶ができるようにするための工夫として、校門に「挨拶ゾーン」を設定した。活動を通して、気持ちのよい挨拶を意識する児童が増えてきた。

今後も、温かい気持ちで学校生活を送ることができるよう、挨拶運動を継続していきたい。

児玉小学校 私たちのお兄さん・お姉さん ～学区でつながる異校種間交流を通して～



読み聞かせの様子



校外学習への付き添い

本校の学区には、西陵高等学校がある。子どもたちは、普段から、部活動の練習風景や制服を着た高校生が登下校する姿を見ている。また、昨年度から異校種間交流を行っているため、子どもたちは西陵高校を身近に感じており、日頃から憧れている。

今年度は、交流学习をキャリアタイムとして位置付け、さまざまな活動を行った。2年生は、学区探検で高校の案内と、読み聞かせをしてもらった。3年生は、消防署への校外学習に付き添ってもらい、アドバイスを受けながら見学することができた。5・6年生は、「中学校・高校って、どんなところ?」「高校生の将来の夢は?」と、身近なお兄さん・お姉さんから、進路や悩みについて教えてもらうことができた。

今後も、西陵高校との異校種間交流を通じて、キャリア教育の充実を図り、「私たちのお兄さん・お姉さん」から学ぶことができるよう、研究を推進していきたい。

枇杷島小学校 笑顔輝く！枇杷島っ子



Tシャツ



フラッグ

なごやINGキャンペーンの取組とからめ、みんなが笑顔になれる合い言葉を考える実践や挨拶運動の実践を行い、児童の気持ちを活性化させたい。そして、この活動を通して所属感や主体性を引き出したいと考えた。挨拶をするとみんなが笑顔になれることを児童会の児童が発信し、みんなが挨拶したくなるような合い言葉を募集して全校で投票した。合い言葉は「あいさつは なかよくなれる まほうのこころ」になった。次に、合い言葉をみんなが見えるように、「合い言葉をデザインしよう」と募集して全校で投票した。デザインが決まり、挨拶運動の際に着用するTシャツやフラッグが出来上がった。挨拶運動や合い言葉をみんなが見えることによって、活発な挨拶が広がっている。挨拶をきっかけに、互いに声を掛け合い、思いやり、心地よい雰囲気が生まれることを大切にして、学校づくりを進めていく。

南押切小学校 あなたも わたしも みんな大切



ハンセン病に関する学習

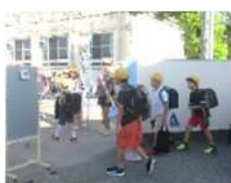


ゴールボール体験

本校では、様々な立場の方の生き方や考え方の違いを知り、認め合い、自他を大切にできる児童の育成を目指して取り組みを行った。

- ハンセン病に関する人権問題について講師を招き、5・6年生の児童が学習した。かつて日本ではハンセン病患者への差別があったことや、無知が差別につながることを学んだ。また、新型コロナウイルス感染症によって似たような状況になったことに気付き、自分たちも無関係ではないと考えることができた。
- パリパラリンピックの金メダリストの方を講師として招き、全校児童がゴールボール体験を行った。目隠しして歩く体験や、音を頼りにボールを転がしたり、取ったりする体験を通して、パラスポーツの楽しさを感じるとともに、視覚障がいのある方の思いや助け合うことの大切さを感じることができた。

比良小学校 あいさつで つなげよう あかるい えがお



挨拶活動の様子



土間に掲示した横断幕

本校では、これまでも児童会を中心とした挨拶活動を通して、挨拶の大切さに気付くことができるように働き掛けてきた。今年度は、さらに挨拶活動を活性化したり、異学年交流を実施したりすることで、児童同士の絆を深めたいと考え次の活動を実施した。

- 挨拶活動では、今年度作成したのぼりを活用して校門での声掛けを行ったり、土間に横断幕を掲示して雰囲気盛り上げたりした。
 - 異学年交流として、ペアグループ集会を月に1回程度行い、異学年との絆を深める機会とした。また、ペアグループ長なわ大会を開催し、大会に向けての練習を通して、協力して運動に取り組むことができるようにした。
- これらの活動を通して、笑顔いっぱいの学校にすることができた。

大野木小学校 「やさしさいっぱい」心に響く 大野木フェスティバル



クラシックコンサート



お店屋さんとお客さんと掲示物

「大野木フェスティバル」の先行イベントとして、「大野木フェスティバルクラシックコンサート」を催した。児童は、デュオ楽団が奏でる本物の音楽を鑑賞した。生演奏が心に響き、豊かな情操を養うことができた。「大野木フェスティバル」当日は、学習の成果をまとめ展示したり、学習に関連するゲームを考え、店を開いたりした。児童は、お店屋さんとして、友達と協力して計画・運営をし、互いを認め合う心が養われた。また、お客さんとして友達の学習の成果を見たり、ゲームを楽しんだりした。友達の学習の成果から学びを深めたり、友達と仲良くゲームをして、対人関係を豊かにしたりすることができた。これらの活動を通して、児童一人一人が当事者となって文化的行事に参加でき、友達のよさに目を向けることや協力することを学ぶとともに、芸術のすばらしさが心に響き、全校が「やさしさいっぱい」になった。

浮野小学校 自分らしく 明るく なかよし 浮野っ子 ～ キャリアタイムの充実を通して ～



CNと連携した心を育む授業



キャリアに関するブックトーク

本校では、中学校ブロックのキャリアナビゲーター（CN）と連携してキャリア教育を進め、「自己を磨く楽しさを知る」活動を行っている。心の内側から自分らしさを表現できる児童を目指すため、3つの企画を進めた。

【自分の心を育てよう 心の醸成プラン】前向きに物事を考えるためのカードゲームを行う中で、自分よさや人生の楽しさなどを捉える心のあり方を学ぶことができた。

【僕らの将来 ショーケースプラン】キャリアナビゲーターと司書教諭で選定したキャリアに関する本を集め、図書室にキャリアコーナーを設置した。また、司書教諭によるブックトークを行い、キャリアに関する本に触れるきっかけとした。

【社会人とのつながりを増やそうプラン】社会人の講師を招き、ダンスを取り入れた講演会を行った。将来の夢に関して考える機会とすることができた。

比良西小学校 未来の自分へ ―オリンピック選手から学ぶ夢を叶える方法―



講演の様子



デモンストレーション
での投げ方指導

本年度は、児童のもつ夢の実現に向け、努力できるきっかけとなることを期待し、元女子ソフトボール日本代表・北京オリンピック金メダリストの二瓶（旧姓馬淵）智子さんを招き、全校児童に向け講演会を行った。「夢を叶えるちょっとしたヒント」をテーマに、夢を叶えることができた努力の軌跡や大切にしてきた感謝する心、プラス思考の大切さなどの話を伺った。その後、デモンストレーションとして、野球部とソフトボール部にも参加してもらいながら、トスバッティングやロングティーの実演を披露していただいた。各教室をまわって実際に金メダルにも触れ、これから自分の未来を自分の力で切り開いていく児童にとって、金メダリストとの触れ合いは、この上ない刺激となる経験になった。

中小田井小学校 楽しさいっぱい 中小田井小学校



あいさつ運動の様子



代表委員会の様子

本校は、例年、挨拶運動を中心に児童会活動が活発である。昨年度も児童会役員を中心に、挨拶運動の工夫を凝らし、安全に登校できるように、手の形のタッチカードを考案し、ポケットから手を出して、挨拶できるように工夫した。

今年度は教育目標の「楽しさいっぱい 中小田井小学校」を合言葉に、児童主体で行う「中小田井っ子まつり」を実施することになった。それぞれの学級でお店を考え、発表するとともに、異学年のペアで見学することにした。お店は、6年生が考えたクイズ形式の「ザビエルによる歴史パズル」や4年生が考えた発表形式の「劇団四三（しみ）サウンド・オブ・ミュージック」、みどり学級が考えた体験形式の「みんなでみどりボウリング」など各学級とも工夫を凝らしたものが多かった。子どもたちもお店の運営やお客として、楽しそうに参加することができ、絆を深めることができた。

豊臣小学校 あなたも大切、わたしも大切

～人と関わることの楽しさや喜びを感じることができる児童を目指して～



異学年交流の様子

本校では、1～6年生の児童で構成する「縦割りグループ」を編成し、異学年交流を取り入れている。今年度は縦割り集会に力を入れ、月に2回レクリエーションや委員会主催の活動を縦割りグループで楽しめるように、計画を立てて行った。

また、行事では、ペア学年での活動を設定した。作品展では、「鑑賞パネル」を設置した。ペアの友達と一緒に鑑賞し、お互いのよいところを記入し、鑑賞カードをパネルに貼ることで、「〇年生のお姉さんにほめてもらえて嬉しい」とたくさんの笑顔を見ることができた。異学年交流を続けていく中で、低学年は上級生に対するあこがれの気持ちを、高学年は下級生に対する優しさや自信をもつ姿が見られるようになった。今後も、異学年で楽しめる活動を工夫して取り組んでいきたい。

ほのか小学校 深めよう ほのかっ子の絆



挨拶活動を行う様子



デジタルサイネージを見る様子

本校では、児童が互いのよさを認め合い、協力して生活することを目指し、挨拶活動や異学年交流たてわり活動に取り組んでいる。今年度は、それらの活動を継続するとともに、児童が主体となっていくいじめの未然防止につながる活動に取り組んだ。

○ 児童会中心の挨拶活動に加え、たてわりグループや学級ごとに行う挨拶活動にも取り組んだ。毎朝、挨拶を交わすことで仲間とのつながりを実感し、進んで挨拶をしようとする意識が高まったり、仲間との絆を実感したりすることができた。

○ デジタルサイネージを活用し、全校に向けて、いじめ防止につながる活動の情報を発信した。学校のキャッチフレーズを決めたり、友達を大切にする心を育む「スマイル週間」などの活動に取り組むことで、学校全体でいじめを許さない意識を高めたり、仲間とのつながりを体感し、絆を深めたりすることができた。

千成小学校 「笑顔あふれる千成っ子」



せんなりんパペット



パペットを使った呼び掛けの様子

今年度、千成小学校のオリジナルキャラクターの「せんなりん」が子どもたちにとってより身近な存在となり、親しみをもつことができるように「せんなりんパペット」をつくった。挨拶運動などの児童会活動や各学級での学級活動の際に活用することで「笑顔あふれる千成っ子」へとつながると考えた。「せんなりんパペット」を生かしながら、友達と協力して仲間意識を高め、千成小学校をより活性化できるように、次の活動を実施した。

- 児童会行事として、「夏の子どもまつり」や「なかよしタイム」で異学年交流をしたことで、互いの良さを認め合いながら、協力して頑張る態度を育むとともに、児童同士のつながりを深めることができた。
- 毎週火曜日の朝行った挨拶運動を通して、挨拶をすることの大切さに多くの児童が気付くことができた。児童会役員が「せんなりんパペット」をはめながら元気よく挨拶することで、登校してきた児童からも元気のよい挨拶が返ってきた。

岩塚小学校 笑顔いっぱいの岩塚っ子 ～仲間との憩いの場づくり～



ペア活動でベンチを活用する様子

本年度、「なかよし池」のベンチを設置した。同時に、池の周りの清掃や草抜き、藤棚の剪定など「なかよし池」周辺の環境の整備を進めていくと、集まる児童が増えていった。また、休み時間には、池の周りの植物や池の中のコイの様子を観察する姿が見られるようになった。ペア学年の活動を本格的に復活させ、ペア清掃活動では、池の周りの清掃に楽しく参加する児童も増えた。また、新しく設置したベンチに座りながら、ペア学年の活動の計画に向けて上級生と下級生が話し合う姿も見られるようになった。現在、「なかよし池」が児童にとってのふれあいが生まれ、仲間との絆が深まる場となりつつある。今後もペア活動を充実させ、児童同士のつながりがさらに深まるように「なかよし池」を活用していきたい。

栄小学校 異学年でつながる中で自分らしく輝く！



隣接学年で話し合う様子



ペア学年で取り組む様子

～社会や地域と関わりながら自分たちで企画して～

学校教育全体を通して、最上位目標の「夢中になれるものを見つけよう！自分からDo！～失敗のその先へ～」の実現を目指している。スポーツフェスティバルも同様で、教師が考えた内容や方法等を教えられたとおりに行っていたこれまでの行事の在り方を見直し、子どもたちが自ら計画し、進めた。

準備段階では、ペア学年や隣接学年（低学年・中学年・高学年）で協力してやりたい種目やルールを考え、参加したい種目を選択し、練習した。当日は、ペア学年で行う交流運動と隣接学年で行うレクスボ、どちらにおいても、みんなで作くり上げた競技に夢中になって取り組む姿が見られた。異学年でつながることで、子どもたちは自他の良さに気付き、自分らしく輝いていた。

新栄小学校 みんなが心地よい学校作りを目指して

～プロジェクトアドベンチャー（PA）とサークル対話を取り入れた活動を通して～



なかよし遠足の様子

本校では、互いに心地よく学校生活を送ることができるようにするために「PA」と「サークル対話」に取り組んでいる。また、学年を超えて豊かなつながりを強められるよう、異学年で編成された「なかよし班」による活動にも取り組んでいる。

実践例：各学年において「PA」と「サークル対話」を行うことで、集団の中で互いを尊重し合いながら学校生活を送る意識が高まっている。また、集会委員会が中心となり、学校全体で楽しむことができるゲームを行った。「なかよし遠足」では、全校で東山動植物園に行き、みんなが楽しく過ごすことができるように各なかよし班でめあてをもって、活動することができた。

上記活動により、子どもたち同士で豊かなつながりを強め、心地よい学校作りにつながっている。

大須小学校 自ら考え ともに学ぶ子どもの育成



鶴舞公園のサッカー場を借り上げてのレクリエーション

本校では、年間を通して1～3年、4～6年生の児童が縦割りでふれあいグループをつくり、交流している。活動の内容を自ら決めたり、上学年の児童が下学年の児童に教えたりすることで、自己有用感の醸成を図り、絆を強めることができると考えている。

10月に実施したふれあい遠足では、低学年と特別支援学級は庄内緑地公園へ、高学年は鶴舞公園へ出かけた。鶴舞公園ではサッカー場を借り上げ、児童が考えたレクリエーションを行った。また、みんなでクイズラリーを行い、楽しむことができた。

12月には、地域の方と全校でもちつき大会を行った。みんなでもちをつき、つくたてのもちを一緒に食べる体験を通して、仲間や地域への愛着を深めることができた。

これらの共通体験により、異学年の児童が休み時間に運動場で一緒に遊ぶ様子が多く見られるようになるなど、仲間との絆を強めることができた。

正木小学校 本が大好き！正木っ子！ ～読書を通したコミュニケーション能力育成～



おすすめ図書



ペア読書集会

本校では「本が大好き！正木っ子！」をテーマに、読書を通して知識・考える力、コミュニケーション能力を身に付け、友達を大切にすることができる児童の育成に取り組んだ。

まず、児童が利用したくなる図書室づくりに取り組んだ。図書室入口にデジタルサイネージを設置し、図書委員会を中心に「おすすめ図書」を紹介した。次に、「おすすめ図書」を通した良好な人間関係づくりの機会として、「ペア読書集会」を実施した。上級生が親身になって、下級生へ読み聞かせや図書紹介をすることができた。

これらの活動により、児童は読書に親しむようになり、図書室を利用する児童数が前年より増えた。今後も、児童が利用したくなる図書室づくりを進めていながら、児童のコミュニケーション能力を高めていきたい。

広路小学校 仲間とつながる 広路っ子 ～異年齢交流活動を通して～



サイコロトークでアイスブレイク



協力してグループワーク
トレーニングに挑戦

本校は、同じ学年・学級の仲間だけでなく、もっと多様な人と交流することで、子どもたちが他者と関わる喜びを実感し、役割と責任について考えを深めることができるよう、異年齢交流活動に取り組んでいる。1年生から6年生の6～8名でグループ編成し、高学年を中心にグループワークやギャラリートークなどの活動を行っている。活動は月に1回程度行い、低学年は、集団活動に対する楽しさを感じ、興味・関心を広げることを目標としている。高学年は、下学年を思いやる気持ちや自信や誇りを持ち、リーダー性を養うことを目標としている。振り返りでは、「初めは緊張して上手く話せなかったけど、今はこの時間が楽しみです」「1年生がもっと活躍し、楽しめるように工夫したいです」などグループの絆の深まりを感じる。仲間とつながるよさを実感することができる取り組みをこれからも続けていきたい。

八事小学校 八事っ子の「憩いの場」 ～八事観察池復活プロジェクト～



会話を楽しむ教師と児童



生き物を観察する児童

本校の運動場には、長年立ち入り禁止となっている観察池があった。その場所に「憩いの場」を作ることに取り組み、「八事観察池復活プロジェクト」を立ち上げた。まず、職員や高学年の児童を中心に、池とその周囲の環境整備に取り組んだ。次に、低学年の児童を中心に、地域にある「隼人池」から譲り受けたモツゴやメダカなどの在来種が住みやすい環境を調べ、環境づくりに努めた。そして、特別支援学級の児童を中心に、観察池の周囲の花壇に季節の花を植えたり雑草を取り除いたりする活動を行った。また、代表委員会の児童を中心に、利用方法やルールについて話し合った。

その結果、ベンチに座って同学年だけでなく異学年の友達や教員と会話を楽しむ児童、観察池に住む生き物と触れ合う児童を見掛けることができ、「憩いの場」として「八事観察池」が仲間との絆をより深める場となっている。

白金小学校 輝け！プラチナのように ～児童会活動「挨拶運動」を通して～



デザインを考える児童会の児童



挨拶運動の様子

本校では、学校経営の重点項目「子ども一人一人の思いやりや願いの尊重」として、児童会が中心となり、「挨拶運動」に取り組んでいる。

本年度は、白金小学校オリジナルキャラクターを取り入れた「オリジナルのぼり」と「オリジナルベスト」を児童会役員・代表委員が中心となってデザインを考案、作成し、「挨拶運動」を行った。また、本年度新たに児童が考えたINGフラッグのスローガン「笑顔あふれる白金小」をホワイトボードに掲示したり、「オリジナルのぼり」や「オリジナルベスト」のデザインに取り入れたりするなど、「なごやINGキャンペーン」の取り組みも行った。

これらの活動を通して、児童全員が「進んで挨拶をしよう」という気持ちをもったり、「相手を思いやる心」を育んだりすることができた。

伊勝小学校 互いに尊重しながら協働し、主体的に学ぶ伊勝っ子 —自分をみつめ、よさを伸ばし合おう—



応援団を撮影した動画を見ながら一緒にダンスを踊る様子

「ナゴヤ学びのコンパス」の策定により、川名中学校ブロックにおいて、共通の目標を設定し、9年間を見通した教育活動を行うことにした。その結果、「互いに尊重しながら協働し、主体的に学ぶ」ことをテーマに、今年度は、「互いに尊重しながら協働」を重点において活動を進めることにした。

そこで、全ての児童が目にしやすい職員室前に液晶モニターを設置し、互いに頑張っている様子や学習活動の成果物などの写真や動画を上映することにした。そうすることで、自分の価値意識を高めたり、仲間一人一人のよさを知り、他者を理解したりと、仲間との絆を深める様子が見られた。また、楽しそうに活動する写真や動画を日々見ることで、「学校は楽しい」という雰囲気をつくり出すことができた。

高田小学校 ④のしさいっぱい ④かंदういっぱい ④いすき高田小学校



ドッジボールを楽しむ様子



障害物リレーを楽しむ様子

業前の時間に1・6年、2・5年、3・4年の児童がペアで活動する時間「フレンドリータイム」を設け、グループで遊びを相談したり一緒に遊んだりする活動を通して、自分の役割を自覚し、互いに関わり合う喜びを感じることができる児童の育成を図っている。

今年度は、4月に「よろしくねカード」を渡す会から始め、交流を深めた。遠足では、ペアで公園まで歩いたり、グループで一緒に遊んだりする中で、下級生が安全に楽しい時間を過ごせるように気遣う上級生の姿や、上級生の運動能力に憧れを抱く下級生の姿が見られた。フレンドリータイムでは、回を重ねるごとに、互いを思いやりみんなで楽しめる遊びを工夫していた。今後もフレンドリータイムをはじめとした異学年交流の充実を目指して、相手を思いやる気持ちを育んでいきたい。

瑞穂小学校 えがこう、みんなの夢を！つなごう、みんなの心を！



ドリームマップを作成する様子



ドリームマップを発表する様子

本校の児童は、進んで仲間と関わり学習に向かっていくことができる反面、自分の夢や目標をなかなかもてずにいる児童の姿も見られる。そこで、児童が未来への希望をもち、主体的に生きていくために「夢を描く力」を育むプログラムが必要だと考えた。

- 今の自分について見つめ直し、将来の姿を想像した。
- 想像した将来の自分の姿を素材や吹き出しなどと組み合わせ、ドリームマップを作成した。吹き出しには、将来、「誰と何をしているのか」や「幸せにしている人は、誰か」などの未来の自分についての説明を書いた。
- ドリームマップを使って、将来の自分について発表したり、聞いたりすることで、児童の「夢が実現するように頑張りたい・友達の夢を応援したい」という気持ちを育むことができた。

穂波小学校 みんなで作ろう！楽しく、笑顔あふれる穂波小学校



「いなほちゃん」
お披露目会



「ほなみん」と
「いなほちゃん」

児童会の企画で、全校児童がより小学校に愛着をもち、楽しく登校、生活できるようにするために、穂波小独自のキャラクター「ほなみん」、「いなほちゃん」を作成した。

I N Gフラッグのスローガンも児童会を中心に全校児童で考え、キャラクター「ほなみん」、「いなほちゃん」を入れて、思いが込められたスローガンを考えることができた。

また、スローガンが印刷された「ほなみん&いなほちゃんクリアファイル」を作成したことで、穂波小学校への愛着、いじめ防止の意識を高めることにつながった。作成したクリアファイルを通して、保護者や地域に見ていただいたことで、児童の活動や思いを伝えることができた。

豊岡小学校 強い絆で やさしい心！



メッセージカードの展示



児童が鑑賞する様子

<いじめをしない、ゆるさない メッセージの交流を通して>

本校では、全校児童が、互いを思いやる絆を大切にし、夢や命に関わる思いを言葉にして展示する取り組みを継続して行っている。教室を店にして、保護者やペア学年の児童と店を巡ったり、店番をしたりする「岡の子まつり」の場を活用し、メッセージカードの展示・鑑賞を行った。

- 一人一人が書いたメッセージを展示する。
- 児童は仲間の作品を互いに鑑賞し、交流を深める。
- 保護者にも鑑賞してもらい、学校の取組を紹介するとともに、いじめや絆について家庭で話題にしてもらう。

同じ学校に通う仲間であるという認識を深め、互いの存在を大切にしよう意識を高めることができた。保護者からの理解も得ることができた。

旗屋小学校 キャリア教育の充実ー「旗屋っ子の夢づくり」を目指してー



ヘアアレンジをしている様子



三方の職人技を見ている様子

本校は、ナゴヤ学びのコンパスの取組として、キャリア教育の充実を柱としており、「旗屋っ子の夢づくり」を目指している。キャリア教育においては、実社会で活躍する本物のヒト・モノ・コトとの出会いが大切である。キャリアナビゲーターと連携して、システムエンジニア、伝統工芸師、司会業、高等専修学校（美容師コース）の学校関係者、農家の方を招き、職業体験「お仕事わくわくワークショップ♪♪」を高学年対象に実施した。

児童は実際に体験することでしか味わえない、仕事の難しさや楽しさ、肌触りや匂い等から職業に対する興味・関心を広げることができた。そして、この体験をきっかけとして、多くの児童は、自分の「好き」や「できる」を見付けたり、改めて気付いたりすることができた。

千年小学校 ちとせの子 ～児童会による主体的な活動を通して～



あいさつ活動



全校児童集会

本校では、ちょうせんする・ずっと続ける・、せいちょうするという、教育目標を掲げている。今年度は、「自律」「協働」を重点項目として加えた。

「あいさつ活動」では、今までよりいっそう児童会が中心となり、児童の発想を生かした「あいさつ活動」に取り組んだ結果、児童一人一人が主体的に挨拶するようになり（自律）、全校児童同士がつながりを感じる（協働）ことができた。

また、「全校児童集会」では、異学年のペアグループの仲間で協力して、制限時間内にクイズなどのミッションに取り組む校内ウォークラリーを行った。学年の枠を超えて協力して行うことで、ペア学年のグループの絆を深めることができた。

白鳥小学校 「夢の実現に向けて努力することができる白鳥っ子」の育成



このほり職人による講話



留学生と関わる様子

本校は学校教育目標に「よりよい自分づくりを目指す子」を掲げており、多様な人々との関わりを通して、自分自身の生き方を見つめ、夢の実現に向けて努力することができるような子どもを育成したいと考え、実践に取り組んだ。

第一線で活躍する社会人からは、夢や目標に向かって努力した経験や、挫折をした経験等の講話を聞き、自身の生き方を見直す契機とした。名古屋学院大学から留学生などの多様な講師をゲストティーチャーに招き、交流等することで、国際的な見方を広げた。地域の歴史を通して関わりがある他地域の学校とも関わり、他地域の歴史や様子等についても広い視点から学ぶことができた。

今後も児童が様々な人たちとの絆を深める中で、夢の実現に向けて努力することができる子どもを育成していけるようにしたい。

大宝小学校 こんな自分になりたい！「～たい」から始まる、わたしの思い



モザイクアート

今年度60周年の記念の年となり、周年行事で様々なイベントを計画した。自分らしい生き方や将来の夢について考えることができる児童の育成を目指し、キャリア教育をこれまでに実践してきている。「こんな自分になりたい！」と表現できる場を、記念式典と同日に開催する作品展や、周年行事などで設け、保護者・地域の方々に発信した。記念作品では、モザイクアートを作成。児童一人一人が「こんな自分になりたい」という思いをもって自画像を描き、自画像のピースをつなぎ合わせて一枚の大きな絵を作成した。また、絵本作家の宮西達也さんによる講演会を式典の日に開催し、『夢と希望をもって生きる』というテーマで、困難に負けず夢を追い続けることや感謝の気持ちをもつことの大切さについてお話をいただいた。

露橋小学校 元気に登校 笑顔で下校 ～露橋ING活動～



「なかよし団」の活動の様子

本校のスローガンである「元気に登校・笑顔で下校」をもとに児童会が掲げた「全員が元気で仲良く過ごせる学校」という目標を実現するために、児童会の異学年集団である「なかよし団」の活動に取り組んだ。

全校児童を30のグループに分け、各グループの6年生が中心となって活動内容を決め、頭や体を使った活動に取り組んだ。また、代表委員が中心となり、日頃の感謝を伝える「ありがとう集会」やクイズ大会などの全校児童集会を行った。

児童主体で取り組んだことにより、高学年児童の自主性や責任感が高まった。また、なかよし団の活動以外にも、学年に関わらず話したり遊んだりする姿が見られた。

愛知小学校 自ら向かう楽しい学び なかまをつくる笑顔の学校

～多様な人と関わる活動を通して～



茶道体験の様子



年賀カードづくりの様子

本校は、日本の文化や外国の文化を知る活動において、多様な人との関わりを重視しながら取り組んでいる。5年生の日本の伝統文化をテーマにした学習では、地域の茶道教室の先生を招いて茶道の体験活動を行っている。また、5・6年生を中心に行う国際交流の学習では、フィリピンのラクソン小学校とカードを送り合ったり、NPOの方を講師に招き、ラクソン小学校について詳しく知る機会を設けたりしている。その他の学年においても、農家の方から中川区の特産物について学び、中川区の魅力について考えたり、地域の高齢者と昔遊びの交流会を開いたりするなど、地域の方から多くのことを学んでいる。今後も、多様な人と関わりながら、楽しい学びを行い、笑顔の学校を目指していきたい。

昭和橋小学校 一人一人の思いや考えを大切に わくわくしながら学ぶ 昭和橋っ子



ゲストティーチャーに外国の遊びを教える様子



作ったCMの一場面

本校では、総合的な学習の時間を中心に、地域・環境・食・ものづくり・国際理解などのテーマについて探究的に学習を進めている。

ゲストティーチャーから話を聞いたり、知っていることを円形ホワイトボードへ書き出したりするなどの活動を通して、一人一人が探究課題を決めた。そして、探究課題に基づいて、インターネットや様々な資料を用いて調べたり、仲間とアドバイスし合ったりしながら、探究活動を進めていった。

まとめの活動では、一人一人の思いに合わせて、CMを作ったり、タブレットを使ってまとめたりするなど、個性溢れる作品ができた。できた作品は、互いに見合ったり、他学年や保護者に紹介したりするなどした。

本活動を通して、児童が探究的に学習に取り組む姿が見られた。

正色小学校 「正色、大好き！」～笑顔あふれる縦割り班活動を通して～



顔合わせ会で自己紹介



フレンドリータイムの様子

本校では、児童同士の仲間意識や絆を深めるために、児童会が中心となって縦割り班活動に取り組んでいる。今年度は、朝の時間に「フレンドリータイム」と称した縦割り班遊びの時間を設け、児童が主体となって、1～6年生が楽しめる様々な遊びの計画を立てられるようにした。

初めは、どのように進めてよいか分からず戸惑う姿が見られたが、回を重ねるごとに、自分たちで決めた遊びに夢中になって取り組む姿が見られるようになった。時間の終わりには、笑顔で「ありがとうございました。またね。」などと挨拶を交わして教室に戻る姿が見られた。また、『明日はフレンドリータイムがあるから学校に行きたい。』と家で娘が言っています。』という保護者からの声も聞かれ、より学校を好きになり、仲間意識を深めることにつながった。

万場小学校 異学年交流を通して、認め合い、ともに高まり合う万場の子



異学年グループの学習の様子

本校では、一人一人の子どもが個別最適な学びを進めることができ、異学年の子どもと認め合い、励まし合い、高め合うことができるよう、以下の取り組みを行った。

○ なかよしフェスティバル

ペア学年で、様々なお店を運営したり、お店を巡ったりする活動を行った。上学年を中心に、出店内容や役割分担、準備の進め方等を考えた。下学年を気遣いながら運営したり、楽しそうに校内を巡ったりと、子どもたちが輝く姿が多く見られた。

○ あつまれ！！学びの会

3・6年生を中心とした異学年グループで、一人一人が自分で選択した課題を持ち寄って共に学習し、内容や成果を伝え合った。異学年の仲間との交流を通して、互いに認め合うことができた。

西中島小学校 みんななかよし！ にしなかつ子



ペア学年での鑑賞の様子

本校では、例年「なかよし学級」という1・6年、2・5年、3・4年がペアとなって活動する異学年交流を行っている。異学年で集まって楽しく遊んだり、敬老会のプレゼント作りや作品展の鑑賞をペア学年で行ったりすることで、友達と協力する態度や、互いのよさを認め合い、学校生活をよりよくしようという思いを育むことをねらいとして、全校で取り組んでいる。

今年度は、例年の活動に加えて、「西中挨拶運動」として、挨拶することのよさや、学校で増えてほしい言葉を書いたメッセージカードをペアで交換することを通して、挨拶の大切さや気持ちよさを実感できるようにしたり、相手を思いやる心がもてるようにしたりした。取り組みの結果、学校生活をよりよくしようという気持ちが児童の間で高まった。

東築地小学校 あいさつからつなげる、笑顔広がる ～異学年交流を通して～



ペア学年での集会



縦割り班での鑑賞会

本校では、「NIA（名古屋で一番あいさつが響く学校にしよう!）」をキャッチフレーズに挨拶運動を行っている。代表委員会を中心に、挨拶運動の呼び掛けや異学年交流の児童集会を行うことで、絆を深める機会を増やす取組を行った。

作品展では、ペア学年で海の生き物をちぎり絵でつくる共同作品づくりを行った。アイデアを出しながら、ひとつの作品を協力してつくりあげる達成感を味わうことができた。また、縦割り班で作品展の鑑賞会を行い、それぞれの作品について紹介し合い、相手の工夫や頑張りを褒め、互いに認め合える喜びを味わうことで、仲間づくりにつなげることができた。これらの活動をきっかけにして、校内ですれ違うと自分から挨拶をしたり、「元気？」と声を掛けたりする姿が増えていった。互いに認め合うことで、学校生活をよいものにしていこうとする態度を育てていきたい。

中川小学校 仲間の笑顔いっぱいの中川まつり～仲間を思いやる活動を充実させて～



お店を楽しむ様子



振り返りの様子

本校では、「笑顔いっぱい 夢いっぱい 仲間とともに 輝く明日へ」を合言葉に学校生活を送るようにしている。そこで今年度は、「大切な仲間を笑顔にするためには、どうしたらよいのか」を主体的に考え、実現できるように、各学級でお店を企画・運営し、そのお店をペア学年で回る「中川まつり」を行った。

お店の企画・準備段階では、誰もが楽しめるように、それぞれの学年に応じてゲームの難易度を変えたり、ペアで協力し合えるルールを考えたりしながらお店をつくりあげていった。中川まつり当日は、上級生が下級生を優しくリードして、どのお店でも笑顔いっぱいになっていた。また、お店を回った後に行った、互いに感謝の気持ちを伝えたり手紙に書いて渡したりする振り返り活動でも、たくさんの笑顔を見ることができた。

港楽小学校 みんなで協力 みんなが仲間 チーム港楽

ーペア学年活動とあいさつ運動を通したコミュニケーションを通してー



ペア学年ですごくを楽しむ様子

本校では、「みんなで協力 みんなが仲間 チーム港楽」をテーマに、全校の絆を深めるための取り組みとして、以下の二つに重点を置いて取り組んだ。

- ① 「ペア学年で遊ぼう」…毎週金曜日の朝の時間を活用してペア学年で交流する時間を設け、異学年の絆を深める機会を設けた。
- ② 「あいさつ運動週間」…代表委員が月に1回1週間登校時間に門に立ち、全校生徒とあいさつをする活動を行った。

ペア学年活動を取り入れたことで、休み時間にも一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。また、あいさつ運動では、しっかりとあいさつができたならシールを配付するという工夫を児童が考え、あいさつを積極的に行う意識付けにつながった。

成章小学校 夢に向かって、自分らしく



授業の様子



制作する様子

本校では、夢や希望をもち、主体的に生きようとする意識を高め、自分の持ち味や役割を生かそうとする児童を育てるキャリア教育の実践に取り組んでいる。

本年度は、外部講師を招いて「夢に向かう自分づくりの方法」についての話を聞き、夢に対する固定概念を取り除き、無限の可能性を感じながら自分と向き合う場を設定した。「ビジョン・スイッチ・プログラム」という活動を通して、将来どんな自分になりたいかや就きたい職業、興味のあること等を想像して「ビジョン・シート」を制作することで、夢へ向かっていく自分をイメージすることができた。

その後、自分の中から湧き出た夢や希望について言葉で伝え合って共有することで、共に応援し合う仲間の存在についても感じることもできた。今後も、夢に向かって自分らしく、主体的に生きようとする児童を育てていきたい。

東海小学校 東海っ子の絆を深めよう ～異学年の友達との交流を通して～



最初の顔合わせ



東海っ子まつり

本校では、異学年の児童で編成した縦割り班が主体となって活動する「たてわり集会」を実施している。昨年度までは集会委員会の主導による活動だったが、今年度からは個々の縦割り班に活動内容の立案・決定を委ね、集会の際、何をして遊ぶかについて計画を立てる時間を設けている。児童は、活動内容の立案・決定を委ねられたことに、はじめは戸惑っていたが、回数を重ねるごとに「〇〇して遊びたい！」という声が多くあがるようになった。また、縦割り班ごとにゲームブースを出店し、互いに参加する「わくわく！東海っ子まつり」を実施し、協力することを通して児童同士の交流を深めることができた。他にも、運動会における競技や造形作品展における鑑賞タイムなど、縦割り班で参加したり取り組んだりする機会を設けている。今後も、児童同士の関わりが充実し、より一層絆が深まるよう支援していきたい。

西福田小学校 自分らしく生きる ～本物のヒト・モノ・コトとの出会い～



和菓子作りの様子



縦割り班プレゼンの様子

4～6年生を対象に「グラフィックデザイナー」「和菓子作り」「手作りコスメ制作」「自動車開発」の職種から、自分が興味をもった職種の一つを選び、一つの班で4人程度の縦割り班を編成した。事前学習では、「なぜ働くのか」を考えたり、体験する職業の仕事内容を調べたりした。当日は、選んだ職種の仕事体験を行った。その後、体験した仕事の魅力や、講師がどのような思いでそのように取り組んでいるのか縦割り班で協働してスライドにまとめていきプレゼンテーションを行った。モノづくりは単なるモノを「作る（造る）」だけでなく、その先にある「人々の笑顔」など目に見えない大切なモノをつくっているということに気付いた。また、縦割り班で課題に取り組むことで、単学級では気付くことができない「自分のよさ」や「相手のよさ」に目を向けることができた。

福田小学校 みんなで考え、みんなで学ぶ福田っ子 –「ふくタイム」を取り入れた授業づくり–



友達と実験を試す様子



友達と協働する様子

本校では、全学級で自由進度学習を取り入れた授業づくりに励んでいる。子ども一人一人が学習に対する課題を設定し、課題を解決するために自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学習を進めていく方法で学びを深めている。

子どもたちは、学習のめあてに向かって、一人で集中して学習に取り組んだり、同じ課題を設定した友達と話し合いながら課題を解決したりして、主体的に学習に取り組むことができた。また、困っていることがあると、自分から友達に聞きに行ったり、友達の考えを参考に解決したりするなど、「ゆるやかな協働性」の中で学びを深める姿も見られた。

福春小学校 みんなが安心して過ごすことのできる学校にしよう！



アドベンチャータイムの様子



教室後方のくつろぎの場

誰もが安心して過ごすことのできる学校を目指し、心理的安全性を確保するための集団づくり、教室環境整備に力を入れて取り組んだ。

○ 「アドベンチャータイム」の取組

学級単位でゲームやアクティビティに継続的に取り組んだ。楽しい遊びの体験を通して、互いによく知り合うことや目的のために協力し合うこと、仲間との信頼関係を築くことなどについて実感を伴いながら学ぶことができた。

○ 安心して過ごすことのできる教室環境整備の取組

居心地のよい教室環境について教師と児童と一緒に考え、どのように工夫していくかについて話し合いながら環境整備を進めた。教室後方の空きスペースにマットを敷いてつくったくつろぎの場で、楽しそうに過ごす児童の様子が見られた。

桜小学校 みんなで認め合い、高め合う桜っ子！！



完成した
階段アート

本校では、互いに思いやる気持ちをもつことで、自分も仲間も大切にできるようになることを目指して、縦割り活動や挨拶運動など、異年齢が交流する機会を設定している。今年度は、次のような活動に取り組んだ。

○ “元気な挨拶のあふれる学校にしたい”という思いを込め、代表委員が中心となって挨拶運動を行った。制作した桜小オリジナルキャラクターのハンカチを配付したり、元気よく挨拶を呼び掛け、挨拶しやすい雰囲気をつくったりして、明るい挨拶のあふれる学校を目指した。

○ 全校共同作品「階段アート」を制作した。朝の帯時間を使って、異年齢で役割を分担し、縦割りグループごとに共同作品を制作した。完成した作品は階段に貼り、保護者にも披露した。

菊住小学校 一人一人の子どもが主役になってつくり上げる菊住小学校を目指して



菊住ラリーの様子



あいさつ運動の様子

本校は校訓「まごころ」を基盤に、互いに思いやる心の育成に努めている。本年度はテーマの実現を通して自己有用感の高まりにつなげるために、委員会活動の充実を図った。

学校行事は、行事の準備や片付け等に高学年や委員会の児童に任せることで、学校行事を自分たちでつくり上げていることを実感できるようにした。「菊住ラリー」では、様々な委員会が全校の児童にゲームオリエンテーリングを楽しんでもらえるよう企画、運営を行った。また、常時活動として、「あいさつ運動」や「児童会通信」、「委員会連絡」など、子どもたちが立案し、よりよい学校にしようと意欲的に委員会活動に取り組んでいる。これらの取組を通して、一人一人の子どもたちが学校をつくり上げている意識の高まりが見られ、自己有用感の高まりにもつながったと考える。

大磯小学校 思いやりを広げよう ～挨拶の花咲く学校づくり～



挨拶運動のたすき



中学JRC部の活動

本校では、毎朝校門で児童会のメンバーが挨拶運動を行っている。より運動を頑張れるよう、メンバーが付けるたすきを新たに作成した。子どもたちが考えたデザインを基にしたたすきには、「気持ちのよい挨拶で人と関われる子が増えてほしい」という願いが込められており、運動への意欲を高めることができた。

また、季節に合わせた花の苗を用意し、児童自身に花の世話をさせていくことで、思いやりの心を育んだ。苗の植え付けや花壇の整備には、中学校のJRC部に協力していただいた。児童は活動の様子を直接見たり、学校便りを通して知ったりして、中学生への感謝の思いをもつことができた。

このように、挨拶の推進や、協力して花を育てる活動によって、お互いを思いやる心が育まれ、児童の心の安定につなげることができた。

春日野小学校 自分のよさや可能性に気づき、笑顔あふれる学校にしよう



運動会の様子



ペア学年での話し合い

学校全体に一体感が生まれ、春日野小の一員として安心して学校生活を送ることにつながるようにするために、学校キャラクター「春野つる」がプリントされたリストバンドを一人一人が着用して運動会を行った。リストバンドに絵やメッセージを書いて友達と見せ合う姿も見られ、認め合ったり励まし合ったりしながら仲間との絆を大切にする意識を高めることができた。また、児童集会の時間にペア学年での遊びを行い、活動を企画実施する中で、力を合わせて一つのを創り上げる充実感を味わったり、交流により思いやりや優しさの大切さに気付いたりすることができるようにしている。作品展や春日野祭でもペアで行う活動を取り入れるなど、ペア活動をより充実させ、自分のよさや可能性に気づき、学校生活をよりよいものにしていくとする態度を育てていきたい。

宝南小学校 宝南ピース！みんなの思いをつなげよう！



モザイクタイルアート



制作の様子

本校は、「ともに学び ともに生きる」をテーマとして人権教育を進めている。その中で、本校に関わる児童、教職員、保護者、地域の方の絆を深めるための活動として、「モザイクタイルアート制作」に取り組んでいる。

初めに、なごやINGキャンペーンの標語づくりを全校で取り組んだ。各学級で話し合い、学級代表の標語案を選定した。その後、代表委員が選んだ候補に、全校児童で投票し「友達是一生に一度の宝物」を決定した。この標語を踏まえてモザイクタイルのデザインを募集し、代表委員会で候補を絞り、全校児童で投票をして決定した。

代表委員会が中心となり作業の準備をした上で、全校児童はもちろん教職員や、保護者、地域の方々にも制作に加わっていただいた。本校に関わる様々な人達との協働によって、児童は一つの作品を作りあげる喜びを味わうことができた。

廿軒家小学校 続・ともに高め合い、一人一人がかがやく学校



掲示板上で進捗を確認する様子



全校「ジェンカじゃんけん」

「続・ともに高め合い、一人一人がかがやく学校」をキャッチフレーズに、仲間とともに高め合うことを目指した。

生活科や総合的な学習の時間では、プロジェクト型の学習形態を取り入れ、子どもがプロジェクトのどの段階にいるかを掲示板に示すことで、子ども同士と一緒に取り組みやすくなり、互いに助言し合うことができた。

異学年交流では、上級生は一人一人が責任感をもって活動に取り組み、特に運動会では、キャッチフレーズを基に「今こそ みんなが主役 友情パワーで金メダル」というスローガンを掲げ、児童会を中心に「みんなで高め合っていこう！」と、一丸となって取り組むことができた。

志段味西小学校 世界の友達と一緒に学ぼう



演奏体験会の様子

中国の民族楽器である二胡の演奏家として活動しているチャン・ビン氏を外部講師として招き、6年生児童を対象に演奏鑑賞会と二胡の演奏体験会を実施した。鑑賞会や演奏体験会を通して、児童は自国の文化を大切に守り継承していくことの大切さを知ることができた。また、中国と世界の国々を結ぶ架け橋になりたいというチャン・ビン氏の思いに触れたことで、児童は自分がこれからどのように生きていくかということを考えるきっかけとすることができた。今回の演奏会を機に、南京にある小西湖小学校とつながることができた。現在は、本校と南京の6年生とが直接交流をし、将来の夢や大切にしたい自国の文化などについて意見交換をする準備を進めている。児童が多様な他者との関わりを通して見聞を広め、自分にとって大切なものや大切なことについて、南京の6年生と共に考えを深めていける実践としていきたい。

白沢小学校 「人間性豊かな白沢の子の育成」～輝く瞳、輝く笑顔、輝く命～



円形のホワイトボード上で、考えを共有する様子

4年生の社会科「自然災害からくらしを守る」において、風水害について自分たちでできる身の守り方について探究した。思考促進ツールの円形のホワイトボードを使い、名古屋市に大きな被害をもたらした伊勢湾台風と東海豪雨の様子や被害状況を知り、困ることを全体で共有した。そこで出た「風水害で困ること」を基に、「災害が来る前」「災害が来たとき」「災害が来た後」の三つの観点を設け、自分が探究していきたいことを選んだ。自分で決めた観点に沿って調べ、グループで共有することで風水害について備えるためにできることを増やしていくことができた。自分の課題に合わせて探究し、分かったことを防災マップにまとめ、学級で伝え合いながら学びを進めた。単元末には、風水害対策についてまとめたマイ防災マップを作り、学級だけでなく家族でも共有した。

小幡北小学校 つながろう！仲間との絆 つなげよう！今と未来を

～ 開校40周年記念行事を通して ～



小幡北小学校
40周年記念
キャラクター
「きたまる」

本校は、本年度開校40周年を迎えた。そこで、児童会を中心に「40周年記念プロジェクト」と称して、全校児童と協力して企画をしたり、運営したりする活動を行った。その中の一つが40周年記念キャラクターの作成である。

全校児童から、キャラクターのアイデアを公募し、179点もの応募があった。その中から、全校児童・全職員で選考を行い、「いつまでも太陽のように、明るくすてきな笑顔でみんながいられるように」という思いでデザインされた「きたまる」が選ばれた。「きたまる」は、40周年を祝う会などの様々な場面で活用した。このような児童が考え、活躍することができるイベントをこれからも行っていきたい。

下志段味小学校 広げよう！ 気持ちのよいあいさつ



話し合いの様子



あいさつ運動の様子

本校では、代表委員会を中心に、学期ごとにあいさつ運動に取り組んでいる。あいさつ運動に取り組む前に、代表委員会で気持ちのよいあいさつをするために何が必要であるかを話し合った。児童からは、「元気よく大きな声で」や「相手の目を見る」「自分からする」「相手の名前を呼ぶ」など様々な意見が出てきたため、週ごとに目標を決めて取り組むことにした。活動の中で、代表委員の児童が目標を意識してあいさつしたことで、相手も元気よくあいさつを返してくれるようになってきた。また、素敵なあいさつをしてくれた児童を見付け、全校に紹介する活動も行った。このような活動を行ったことで、進んで気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。今後も、児童主体の活動を行い、学校教育目標の一つである「心豊かで思いやりのある子」を育てていきたい。

鳴海小学校 自分もみんなも大切にできる子になるみんな！

～北朝鮮による拉致問題について扱う人権学習を通して～



講演する蓮池氏

本校の6年生では、動画教材「めぐみ」を使って拉致問題について事前学習を行った後、拉致被害者蓮池薫氏をお招きして講演会を行った。演題は「拉致で失われたもの～夢と絆～」で、北朝鮮が拉致をした目的、拉致を認めた理由、拉致問題が終わらない理由、北朝鮮での暮らしや当時の心情、被害者家族を取り巻く現在の状況についてお話しいただいた。児童からは、「拉致やいじめなどの人権を侵害することは絶対に許してはいけなくて分かった」「人権を守ることがどれほど大切なかが分かった」「今の生活を大切にしたい」「解決のために協力したい」という感想が聞かれた。講演後には、被害者救出のお願いの手紙を全員が書き、政府の拉致問題対策本部に送付した。このようにして、他者を尊重する気持ちを養うことができた。



有松小学校 みんなが大好きな学校にしよう ～オリジナルマスコット作りを通して～



児童から募集して作成をした
150周年記念マスコット
アリストリオ

本校は創立150周年を迎える。記念すべき年を祝うということは、学校の仲間や地域との絆を強め、歴史ある自分たちの学校により愛着を深め、親しみをもつことができるよい機会であると考え。そこで、学校への思いを形にし、愛着を深める活動として全校で協力しマスコット作りに取り組んだ。代表委員会が中心となってマスコットを募集した結果、学校や地域の歴史や特色、校訓などを取り入れた素敵なマスコットが多数応募され、学校の象徴となる魅力的なマスコットを完成させることができた。

学校や地域の歴史や伝統を調べたり、自分と周りの様々な結びつきについて考えて表現したりすることで、自分や仲間、地域を大切にする豊かな心を育むことができた。と考える。

片平小学校 つながる片平っ子～児童会活動の充実を通して～



55周年記念キャラクター
「かたぴい」

本校では、これまで継続的に、児童会主催の挨拶運動やペア学年で交流するペア活動に取り組んでいる。これらの児童会活動を充実させ、仲間とのつながりをより強くさせることをねらい、全校で一つのものを作り上げる企画を行った。

一つ目は、片平小55周年記念キャラクターの制作である。来年度に本校が55周年を迎えることから、その記念となるキャラクターの募集・投票を行った。そして、キャラクターに決定した「かたぴい」を印刷したTシャツを制作し、挨拶運動や児童会活動時に活用することを通して、愛着をもつことができるようにした。

二つ目は、「ニコニコ笑顔あふれる学校に」と題した企画である。児童一人一人から笑顔があふれる瞬間を書いたカードを募集し、それを一覧にしたものを制作した。そして、その一覧を、12月に開催した学習発表会において全校・地域に披露をした。

浦里小学校 笑顔、挨拶で思いやる浦里っ子～思いやる心きらり浦里小50th～



思いやり啓発Tシャツを
着て挨拶をする代表委員



フォトモザイクアート

本校では、毎月25日に「浦里小にこにこ思いやりデー」を設定し、代表委員が中心となって挨拶運動を行っている。一人一人が思いやりの気持ちを持ち、元気に登校、笑顔で下校できることで、いじめの未然防止に役立てる取り組みである。今年度は開校50周年を記念して、オリジナルキャラクターを公募し、思いやり啓発Tシャツを作成した。子どもたちは思いやりデーをこれまで以上に意識し、地域にもアピールすることができた。2学期末の作品展では、一人一人が好きな場所で好きなポーズを選択し、撮影し合った写真を使いフォトモザイクアートを作成した。写真撮影は、児童集会を活用して、たてわり班ごとに行い、「どこで撮影しようか」「そのポーズおもしろいね」と関わり合う様子が見られた。その後のたてわり遠足においても、上学年が下学年を思いやる場面が随所にきらりと輝き、どの班も笑顔が浸透しつつある。

旭出小学校 多様な他者との関わりを大切にし、未来の自分への期待と自信を高めるキャリア教育



大学生から夢について
助言を受ける様子

本校では、未来の自分への期待を高めるキャリア教育を進める中で、多様な他者と学ぶ機会の充実に努めている。そこで、子どもたち一人一人が作成した旭出っ子目標達成シートを基に、学級や学年、学区にある名古屋市立緑高等学校の生徒、大学生らと交流する機会を設け、互いの夢を語り合ったり、高校生や大学生から助言をもらったりする時間を設定した。活動を通して、自分や友達の夢を応援し、互いに夢に向かって頑張っていこうとする思いを高めることができた。また、夢の実現に向けて、高校生や大学生らの学校生活を教えてもらうことで、自分の夢や将来へ具体的なイメージをもつ子どもの姿も見られた。

黒石小学校 わたしの誕生 ～大切ないのち～



助産師の講話の様子



赤ちゃん抱っこ体験の様子

4年生を対象に、助産師さんと保健師さんをお招きして、「わたしの誕生～大切ないのち」の保健指導を行った。

はじめに、助産師さんの講話から、男女のからだのしくみと生命の誕生について学んだ。自分たちのいのちは、いのちのバトンにより受け継がれてきたものであることを知り、それぞれの性を尊重するところが育まれた。

その後、お産劇の鑑賞や子宮袋から生まれる体験では、自分の誕生を周りの人が応援してくれたことを改めて実感し、いのちを大切にしようとする気持ちが育まれた。

最後に、赤ちゃん人形の抱っこ体験を通して、新生児はとても大切に抱かなければいけないことを実感したことから、これまで支えてくれた周りの人に感謝する気持ちが育まれた。

長根台小学校 50周年記念キャラクターを通した活気ある学校づくり



記念キャラクター
「ながにゃん」



キャップアートデザイン

本校は、今年度50周年を迎えた。児童会が主体となり記念キャラクターを募集し、全校児童の投票により決定した。

50周年記念の共同作品として、記念キャラクター「ながにゃん」を用いたペットボトルキャップアートを作成した。ペットボトルキャップの収集も児童会が主体となり呼び掛けることで、再利用する活動から、環境についても考えさせることができた。子どもからは、「みんなの力で作品ができた」「環境保護に協力できた」と喜びの声が聞こえた。

50周年記念行事と共同作品制作を通して、愛校心を育み、環境保護について考えることができた。

大高北小学校 見つけよう！感じよう！伝えよう！



挨拶運動の様子



フォトモザイクアート

本校では、いじめの未然防止を踏まえ、児童のつながりを密にするため、学年の垣根を越えて関わったり、協力したりすることができるように、以下の取組を行った。

- 5月と11月を挨拶月間として、挨拶の大切さを伝え、代表委員による挨拶運動を行った。挨拶を通して、学校全体でふれあいと活気が増え、人と人とのつながりのよさを実感させることができた。
- 異学年交流活動を6年生が中心となっていて行っている。その活動の中で、児童が見つけた「学校のいいね」を写真に収め、その写真でモザイクアートを作成した。写真を撮る活動により、自校の良いところを、改めて確認するとともに、フォトモザイクアートの作成を異学年で協力して行うことで、下級生から敬われる経験や、作品完成の達成感を得ることができ、児童の自己有用感を高めることができた。

熊の前小学校 居心地のいい学級を自分たちで作ろう！



早速プレイマットで楽しそうに話す児童の様子

本校では、児童が安心して過ごすことができるよう、学級での居場所づくりに力を入れて取り組んでいる。どの児童にとっても教室が居心地のいい場所であるために、児童自身が主体的に教室の環境づくりに関わられるよう「教室にあるといいもの」というテーマで話し合った。その結果、「プレイマットを敷いて、友達と話したい」や「観葉植物を置いて、教室に癒し空間を作りたい」、「棚を買って、学校に置いておく教科書を取り出しやすいように整理したい」などの意見が出た。

「教室にあるといいもの」が届くと、早速プレイマットで楽しそうに話す児童や観葉植物を眺めている児童、整理整頓された教室で気持ちよく過ごす児童の姿が見られた。児童が話し合って決めたことが実現したことで、自分の教室への愛着が湧いたり、自己効力感を感じたりすることができた。

香流小学校 児童の自己有用感を高めよう



缶バッチ



挨拶運動

～3つの柱【自己調整学習・心理的安全性・異年齢交流】からのアプローチを通して～

自己調整学習では、「自己選択・自己決定」を大切にして夏休みの課題を一律ではなく選択性にした。また「香流スポーツデー（運動会）」では、学年競争遊技以外に「走るレクリエーション」と「ふれあいレクリエーション」の2種目から自分で選択して参加する形式に変更した。心理的安全性を高めるためにクラス会議や話し方・聞き方のソーシャルスキルトレーニングを発達段階に応じて実施した。また、昨年度児童会が作成したキャラクター「かなれっち」の缶バッチを作成し、校外学習や修学旅行の際に付けていくようにすることで所属感を高めた。異年齢交流として昨年度から始めた地域・保護者・児童合同の公園清掃に加え、「かなれっち」ののぼり旗を作成して児童会を中心にPTAと地域が一体となった挨拶運動に取り組んだ。

高針小学校 仲間と共に学び合い探究し続ける高針っ子



本校では、今年度からペア学年での活動を定期的に行っており、代表委員が中心となり、朝の時間を使いみんなで楽しく活動できる遊びを企画し、運営している。その結果、ペア学年での交流が進み、朝の遊びだけではなく学習でも交流ができるようになってきている。



たかばり博覧会の様子

今年度から作品展を「たかばり博覧会」として、展示を教室で行い、子どもたちが自分の作品を紹介したり、ペアグループで話を聞いたりする対話型鑑賞を中心に行った。自分の作品のことを伝え、褒められることで子どもは自分の作品に自信をもつことができた。また、様々な人と交流することが、自分に自信をもって学ぶことにつながり、これをやってみようという探究する子どもが増えてきている。

蓬来小学校 「大好き！わたしの蓬来小学校！」



マスコットキャラクターの発表



よもニャン

本校は創立50周年を迎えた。この節目の年に、改めて全校児童が学校に愛着をもち、学校生活を明るく楽しく過ごしてほしいと考え、マスコットキャラクターをつくることを代表委員会が提案した。各学年の児童にデザインを依頼し、最終的に全校児童・教職員による投票でマスコットキャラクターの決定をした。マスコットキャラクターを用いた旗、たすき、ステッカーを作成し、PTAと連携して行っている挨拶運動やINGキャンペーンなどで活用した。児童が考えたり、決定したりしたデザインがマスコットキャラクターになることは、学校に愛着をもつことにつながった。

また、マスコットキャラクターを活用した挨拶運動は、よりよい挨拶を行う意欲を高めた。INGキャンペーンにおいても、マスコットキャラクターを活用した呼び掛けは、いじめをしない、させない、許さない学校づくりの一助となると考える。

貴船小学校 チャレンジ！自分でみんなで



児童会による挨拶活動



ペア学年で絵を描く様子

本校の本年度のテーマは「チャレンジ！自分でみんなで」である。そこで、子どもの様々なチャレンジを支援するための取り組みを行った。

「あいさつチャレンジ」では、「あいさつ週間」を設定し、児童会が「大きな声で」「目を見て」など、挨拶のテーマを決めた。決まったテーマのプレートを作り、登校時に門でプレートを提示しながら、全校児童の挨拶への意識を高めることができた。

「ふれあいチャレンジ」では、ふれあいタイムに、作品展で天井に飾る絵をペア学年で描いた。ペア学年で描く絵を考えたり、透明なシートに描いたりし、体育館の天井を自分たちで描いた絵で飾ることで、学校全体の一体感を高めることができた。

「夢チャレンジ」では、子どもたちの夢を応援する本を図書室に置き、朝会で紹介したり、ポップを作ったりして夢へチャレンジする気持ちを高めることができた。

引山小学校 1年生も！6年生も！みんなで楽しく一緒に遊ぼう！



クラスの仲間と



異学年の仲間と

本校では、休み時間に、異学年で一緒になって鬼ごっこやサッカーなどの遊びをする姿が見られる。そこで、更に交流を活発にするために、年齢・性別を問わず、屋内外でできるスポーツ「モルック」を通して、子ども同士の絆をさらに深め、あたたかい人間関係を築きたいと考えた。

まず、モルックの紹介を児童会が行い、全クラスにモルックで使用する道具を配布した。早速モルックで遊んだ子どもたちは、みんな楽しそうだった。仲間同士応援し合ったり、うまくいかなかった仲間を励ましたりする姿が見られた。

さらに、児童会が中心となって、児童集会でペア学年によるモルック大会を行った。異学年児童同士が声を掛け合いながら楽しむ姿に、本校の目指すあたたかい人間関係が表れていた。

豊が丘小学校 人間性豊かなゆたかの子 ～笑顔あふれる豊が丘小学校を目指して～



リニューアルした旗と
挨拶運動の様子

「みんな仲良し 笑顔あふれるゆたかの子」をテーマに、笑顔あふれる学校づくりを目指した。代表委員会を中心に企画し、児童が主体となって様々な取組を行った。

挨拶運動を学期ごとに行い、1学期の挨拶運動では、代表委員が「あいさつまん」となって、一人でも多くの人に笑顔で挨拶したらビンゴできるビンゴゲームを実施した。2学期には、本校の校門に掲示してある旗をリニューアルした。デザインを全校児童の投票で選び、2学期の挨拶運動はリニューアルされた旗のもとで行った。これらの挨拶運動を通して、自ら進んで気持ちのよい挨拶ができる児童が増えてきている。

その他、なごやINGキャンペーン、人権週間などを通して、笑顔あふれる学校づくりに向けた取組を続けていきたい。

極楽小学校 命の大切さについて考えよう ～いろいろな人と接する中で～



ペアで触れ合う様子



出前授業の様子

本校では、命を大切に育てるための取り組みを進めている。

- ING集会：代表委員の児童が「反いじめルール」を発表し、各教室に掲示した。また、劇を通して、悲しい気持ちになっている友達への声掛けについて考えた。
 - ペア活動：朝の時間に1・6年、2・5年、3・4年でペアになり、レクを行って交流をした。また、手紙を渡したり作品展の鑑賞をペアで行ったりすることで、互いを尊重し、よいところや頑張ったことを伝え合い、思いやりの心を育んだ。
 - 出前授業：弁護士による講話（6年）、助産師や保健師による思春期セミナー（4年）、言葉の大切さについて考える講演会（5・6年）などを実施した。
- これらの活動により、児童は相手のことを思いやったり、命の大切さについて考えたりすることができるようになってきた。

梅森坂小学校 笑顔あふれる梅森っ子～みんなの思いがつながる学校づくりを目指して～



梅ちゃんまつりの様子



児童集会の様子

本校では、学校行事（ペア学年活動「梅ちゃんまつり」）で、全校児童が楽しめるお店を企画し運営した。今年度から、近隣の市営・県営荘の独居老人をお招きし、自分たちの思いを地域へ発信する活動へと展開した。参加された地域の方からは、子どもたちの元気な姿に力をもらった」「身体を気遣う言葉掛けがうれしかった」等と、子どもたちの思いが地域へとつながっていることが実感できた。

校内では、児童会の児童が「思いをつなげる」ために、体育館に掲示してある古くなった「校歌」の掲示を、集約した児童のアイデアを基に創り変える活動を行った。児童会のメンバーは、「思いをつなげるために」、児童集会を行ったり募集チラシを作成したりする等、各学級から集まったアイデアを全校の思いにつなげる活動に展開することができた。

八事東小学校 Let's try! になりたい自分を想像しよう!



ドリームマップ作成の様子



発表の様子

本校の教育目標である「Let's try やってみるを楽しもう」に迫るために、児童一人一人が目標をもちながら様々なことに主体的にチャレンジしていく気持ちを高めたいと考え、ドリームマップ作成に取り組んだ。まず、自分の好きなものや伸ばしたいこと、将来の夢について写真を集める活動を通して、今の自分を見つめた。次に、集めた写真を用いて、将来の自分の姿を想像しながら写真や吹き出しカードを組み合わせてドリームマップを作成した。そして、吹き出しカードに、になりたい自分の姿や誰と過ごしていきたいか、幸せにしたい人は誰かなどの説明を書いた。

これらの活動を通して、これからの自分について想像したり発表したり、友達の考えを聞いたりすることで、「夢の実現に向けてチャレンジしたい」、「友達を応援したい」という気持ちを育むことができたと考えます。

野並小学校 国際理解プロジェクト



二胡奏者との
交流会の様子



二胡クラブの様子

本校は、令和4年度より、名古屋市の友好交流都市の一つである中国南京市の小宮小学校とオンラインで交流会を行い、友好交流学校となっている。まずは、南京市出身のプロの二胡奏者を講師に招き、演奏と交流会を行った。体育館改修工事により教室での実施であったが、講師と距離が近付き、活発な意見交流となった。講師から、日本への音楽留学がきっかけで二胡奏者になったと聞き、児童は小宮小学校との交流会を通して日本文化のよさを理解したいと意欲を高めた。また、二胡30本を借りて設立した二胡クラブに29名の児童が参加し、講師から直接指導を受けた。2月の交流会では、同じ小学生の立場で、互いの文化や学校のよさを紹介し合い、絆を深めた。また、年賀状を交換する活動も実施した。国際理解の活動を通して、児童は、自分の国の文化のよさに触れ、これからの自分の生き方について考えることができた。

山根小学校 挨拶いっぱい 笑顔いっぱい ING



デジタルサイネージで
活動内容を映す様子

テーマである「挨拶いっぱい 笑顔いっぱい ING」は、本校の学校教育目標である。この目標の具現化を目指して、以下の活動に取り組んだ。

- 友達と協力してクイズに挑戦したり、委員会が企画したゲームに取り組んだりする「やまねっこまつり」を行った。
- INGキャンペーンとして、児童会が中心となって、INGフラッグのデザイン案を呼び掛けたり、全校で友達の思いやりのある言動について「思いやりカード」に記述し掲示したりする活動を行った。
- 子どもたちが企画した内容や実際に取り組んでいる様子をデジタルサイネージに映し、いつでも見られるようにした。

富士中学校 深めよう絆 富士中の旗の下



学級旗を制作する様子

本校では、生徒会のスローガンである「こころの配達3か条」を行事の運営や日常生活の際に意識して取り組んでいる。互いに関わり合い、認め合い、居場所を確認するために欠かすことができないスローガンである。このスローガンの理念を実現するために各学級で学級旗を制作し、普段、生活する場や体育祭などの場面で掲示をした。

学級旗を制作する際には、学年毎に同じ場所に来ることで、普段は関わりがない生徒同士の関わりを深め、仲間意識を高めることができた。さらに、学年だけではなく、富士中学校としての学校旗も制作することで、同じ富士中学校の一員としての仲間意識を高め、絆を深めることができたと思う。

北中学校 つながれ仲間！つながれ地域！ ～笑顔満開、北中グリーンプロジェクト～



ネモフィラを配布する生徒



ネモフィラ

厳しい環境でもぐんぐん育っていく丈夫なネモフィラには「どこでも成功」という花言葉がある。そのネモフィラを育て、小学生や地域の方に配布することによって、仲間や地域をつなげる活動を行っている。生徒会執行部が呼び掛けから配布までの活動を行っている。ネモフィラの苗を育て、メッセージカードを添えて配布することが伝統となり、例年、多くの方が受け取りに来てくださっている。また、活動後にはお礼のお電話やお手紙をいただくなど、地域に根ざした活動となっている。今年度も、生徒が苗を育て2月から3月に地域へ配布した。例年、3月下旬から4月にかけて、地域のあちらこちらで配布したネモフィラが花を咲かせている。その様子を生徒が目にするによって、さらに地域の一員として貢献しているという実感が得られ、心を育てる活動となっている。

前津中学校 笑顔あふれるTEAM前津



前津フェスタの様子



話し合いの様子

本校では、「笑顔あふれるTEAM前津～自ら考え、自ら学び、自ら行動～」を学校努力点に掲げ、みんなが楽しい学校づくりを目指している。例年、主体的な生徒会活動を行っており、今年度も生徒会役員が全校で楽しめる企画を考え、当日の運営のすべてを行う「前津フェスタ」で、ボッチャやクイズなどをウォークラリー形式で行った。

また、異学年チームによる探究学習で考えた仮説を検証していく際、仲間との対話によって考えをまとめさせる時間を設けた。

これらの取組で、生徒たちは相手の気持ちを受け止めたり、周りの人と協力しながら、活動したりすることができていた。

白山中学校 笑顔で学び 笑顔で生きる ～ともに高めよう～



授業の様子



翻訳ツール活用の様子

本校では、全校生徒が笑顔で主体的に活動できることを目標とし、仲間とのつながりを意識した学校生活に力を入れてきた。

今年度は、自動翻訳ツールを活用して、日本語理解が不十分な生徒等が笑顔で活動できる場面を増やした。授業では先生からの「発問」「指示」「説明」などが理解できるよう、学校行事ではクラス全員やグループでの話し合いなどがスムーズに行えるようにすることで、生徒全員が主体的に活動に取り組めるようにした。

言語の壁を取り除くことで、活動の場面が増え、一人一人の自己肯定感を育むことにつながった。日本語理解が不十分な生徒も含め、全ての生徒が活動し、つながることで、互いのよさを認め合い、笑顔あふれる学校に近づくことができた。

桜山中学校 仲間と協働 桜(SAKU)中プロジェクト②



情報収集する生徒



キャリア告知画面

今年度は、桜中プロジェクト②として、昨年度設置したデジタルサイネージをキャリア教育で活用し、情報収集能力や活用能力（キャリア）を育てたいと考えた。

当校は本年度からキャリアナビゲーターが着任したこともあり、今後一層のキャリア教育を推進していく。特に本年度は、その業界の「本物」を招き、生徒との対話を通じてキャリア実現のプロセスを学ぶ機会を、学年、全校に向けて創出している。デジタルサイネージのモニターを通じ、講話者のプロフィールの事前紹介や集会のねらいを発信、共有することで、生徒たちが主体的に学びの場に参加できる仕掛けとした。また、実施後には、単なる振り返りにならないよう、生徒たちの学びをまとめ、発信している。自分と違う多様な意見に触れることで、視野を広げる機会を提供する場として活用している。

沢上中学校 職業人から学ぶ未来の自分像—自分の夢の探究—



講演を聞く様子



質問をする様子

本校では、自分の夢や興味のある職業について考えさせ、行事での自分の取組みをキャリア・パスポートに記録してきた。今年度は、自分の生き方を見つめ直し、多様性を学ぶ講演会として、先天性四肢欠損症の佐野有美さんを講師として招いた。「あきらめなければ道が開ける。挑戦は成長の種。笑顔は最高のおしゃれ。」と講話で聴き、生徒も、「失敗を恐れず、新しいことにどんどん挑戦し続けていきたい。」と困難に出会ったときに前向きに考える力を学ぶ機会となった。また、差別・偏見のない社会に向けて多様性を学ぶ機会となった。

それぞれの行事で、キャリア・パスポートに記録することを通して、未来の自分像、自分の成長の軌跡を確認できた。学校行事が夢を実現するための土台となり、自信を育み、さらに生徒自身の目指す姿を探究する機会となった。

日比野中学校 「楽しいひびの創造」の実現に向けて ～仲間との絆を深めよう～



ひびスポの様子
審判も生徒が行う



閉会式の様子
生徒が取り仕切る

本校は、「楽しいひびの創造」を学校教育目標に掲げ、生徒が主体的に考え行動できるよう、委員会の活動や学校行事の見直しを図っている。新たに組織した企画運営委員会では、「本校と南校舎の敷地に分かれていることで、日ごろの学校生活において1年生と2、3年生が共に一つのことに取り組む交流の機会が少ない」という課題の打開に向けて、体育的行事の企画・運営を行った。今まで教師主導で行ってきた体育大会から、新たに名称を「ひびスポ」と変え、生徒が自ら種目を考え、3学年が交流する場となるようにした。「ひびスポ」当日は、生徒が企画した種目を実施することで、学校全体が一つになることができた。また、生徒が主体的に準備や種目に取り組んだり、縦割りで3学年が一つのチームとなることで、積極的に交流して絆を深めたりする姿を見ることができた。この活動を通して、生徒自身が学校をよりよくし、学校の諸活動に主体的に参画しようとする学校づくりにつなげることができた。

山王中学校 みんなが過ごしやすいきれいな学校を目指して！



花壇の様子



ボランティア活動の様子

本校では、年間を通して生徒主体で学校をきれいにするボランティア活動を行っている。フラワーボランティアでは、正門から各学年の土間まで続く花壇に季節ごとの花を植え、草むしりや花摘みなどを行う花壇の管理を行った。

生徒会役員が企画した「御掃除向上委員会」では、校内の廊下や階段、運動場の側溝などの「気になる場所」を一斉に掃除するボランティア活動を行った。「みんなが過ごしやすい」学校を目指した生徒会の企画では、ハロウィンに花壇を装飾する活動をしたり、クリスマスには合唱部と生徒会の歌とトーンチャイムのコンサートを行ったりした。これらの企画には、多くの生徒が参加し、楽しむことができた。

昭和橋中学校 みんなで学ぼう！作ろう！SDGs！



講演会の様子



ファイルデザイン

本校では、「互いの思いによりそう学校づくり」を努力点目標に掲げ、生徒の主体性を重んじた活動に取り組んでいる。今年度は、生徒会を中心にSDGsの周知と意欲向上を図る活動を行った。昼の放送やポスター制作を通して周知を図った後、講師として梱包材の制作会社である（株）トヨコンのSDGs担当の方を招いて、講演会を実施した。さらに、SDGsを意識できるようなデザイン画を生徒から公募し、オリジナル紙製ファイルを制作して全生徒へ配布した。これらの活動を通して、「分別やりサイクルを進んでやります」「資源を大切に、次の世代の人が幸せに生きていけるようにしたい」等の感想が聞かれるなど、環境のことを考え、人から物へ、人から人への思いを感じ取れる生徒の育成につながった。

富田中学校 笑顔あふれる学校づくり～『つながり』を通して思い描く自分らしい生き方～



専門家による講演会



キャリア集会

本校では、本物のヒト・モノ・コトと出会うキャリアタイムを横断的・総合的な視点で実施し、その成果や様子を全学年で共有することで学びの『つながり』を深め、生徒一人一人が自分らしい生き方を実現しようとすることを目指した。

これまで地域共生、自己理解、職業観をテーマに探究してきた3年生は、税務署・銀行・証券会社で働く専門家による講演会や体験学習を実施し、一人一人の学びの内容をライフプランとしてまとめた。その後開催した全校生徒によるキャリア集会では、学びの成果を下級生に発表するだけでなく、学びに向かう姿を映像で示しながら本校が求めている姿を確認させた。本事業により、生徒は各学びの『つながり』と意義を実感したようで、ナゴヤ学びのコンパスに掲げられたキーワードである尊重・対話・チャレンジを大切に、笑顔あふれる学校生活を送る姿が増えたと感じる。

助光中学校 みんなで発信・共有し学校全体を安心できる雰囲気になろう



液晶モニターの様子



報告を見る生徒の様子

全校生徒が様々な啓発や告知を目にしやすくするために全学年共通の土間に液晶モニターを設置した。液晶モニターには、生徒会や委員会からのお知らせや、その他の活動の様子などを示した。例えば、生徒会のいじめアンケートの結果を示したり、放送集会で陸前高田市との絆交流に参加した生徒の報告について再度示したりするなどして活用した。

知ることによって生徒たちが他者のことを考え、他者に寄り添う気持ちをもとうとする一助となった。

供米田中学校 教科の指導と生徒指導の一体化から目指した絆づくり



学びの現職教育



くまちゅうタイム

本校では、「学び合い」を軸に「すべての生徒が学びに参加し、夢中になる授業づくり」を推進してきた。今年度は、「生徒一人一人が主体的に学習に取り組む中で培った自己指導能力を、生活面や特活面にも波及させていくこと」を目標とし、教科の指導と生徒指導の一体化に力を注いだ。年3回「学び合い」の講師を招いて現職教育を通じ、教師の授業力向上を目指し、授業改善を進めた。また、生徒同士の授業参観や縦割り集会（くまちゅうタイム）を実施する等、横（同学年）のつながりと縦（学年間）のつながりを強化する活動を意図的に展開していき、絆を深めていった。その結果、学年の枠を超えた生徒同士の交流が活発化し、学校全体での絆が強まる成果を上げた。授業での「学び合い」を軸に、対話を通じて学年間のつながりを強化し、多くの場面で生徒同士が支え合いながら成長することができた。

高杉中学校 自分の良さを発揮し、楽しい学校をつくろう！



SGEの様子



作成したバック

本校では、ゆるやかな協働性の実現を目指して、年間を通じてソーシャルスキルトレーニング（以下SST）とストラクチャードグループエンカウンター（以下SGE）を実践している。毎週木曜日に10分間実施し、良好な人間関係を築き上げる能力と、自己肯定感・自己有用感の向上を目指している。今年度は、SSTの振り返り時にSGEを取り入れたことで、「友だちから自分の良いところを伝えてもらえてうれしい」「自分が気付いてなかった良さを知ることができた」という生徒の声が増えた。また、自己肯定感や自己有用感の向上は、主体的な生徒会活動にもつながり、校則・規則の見直しや行事の精選・新設を実現できたことも大きな成果である。特に、サブバックの指定をなくし、代わりに生徒会が作成した手提げバックを全校生徒に配付するなど、生徒が楽しく過ごせる学校づくりに取り組んだ。

新郊中学校 地域貢献 ～地元に感謝「ありがとう」でつながる心の輪～



地域清掃の様子

本校には、校内花壇の整備を中心とした緑化活動や、車いす体験や老人体験などの福祉イベントの企画と運営を行うJRC部があり、校内におけるボランティア活動を行っている。本年度も昨年度に引き続き、学区の小学校や近隣の施設の花壇整備のボランティア活動を行った。活動内容を小学校の校内新聞に取り上げていただき、小学校の教職員や児童、保護者から「ありがとう」の言葉を掛けていただいた。また、本年度は地域清掃を計画し、地域への貢献を進めた。全校生徒からどこを清掃すると良いかを募り、学区清掃マップを作成した。それを基に、地域清掃をPTAと連携して地元の人々とともに活動することで、学校努力点の「笑顔あふれるみんなの学校～分ける楽しさ、つながる喜び～」の達成に近づくことができた。

鳴海中学校 人権学習「なぜ人権は必要なのだろうか？ ～当事者からの講話を通して～」



生徒会のプレゼンテーション



人権講演会

毎年2学期に全校で取り組む人権学習。今年度の生徒会役員が設定した学習テーマは「なぜ人権は必要なのだろうか？」。個別の人権課題について、当事者から話を聞き、多様な背景や生き方があることを知り、人権尊重について考えた。

生徒会主催の人権集会では全校生徒へのテーマの投げ掛けの後、「拉致問題に関する中学生サミット」の参加生徒が、サミットで芽生えた当事者意識から「拉致問題」について講演を行った。以降、NIC地球市民教室登録のメキシコの方から「外国人」について、NPO法人ASTAの方から「LGBTQ+」について、全国こども福祉センターの方から「子ども」について、学年別に人権講演会を開催した。生徒は当事者からのリアリティのある話を枠からはみ出すほどメモを取りながら聞いていた。

最後に各自の考えを「人権冊子」としてまとめ、全校生徒で共有した。

千鳥丘中学校 自分の考えを、自分らしく表現できるようになろう！



生徒の質問に
答える高橋選手

将来の夢や目標をもって進路選択ができるような印象に残るきっかけづくりとして、オリンピック女子トライアスロン日本代表の高橋侑子選手を招き、ご講演いただいたり、授業や部活動に参加いただいたりするなど、多くの時間を生徒と一緒に過ごしていただいた。

体育の授業や部活動では、高橋選手と一緒に走ったり、タイムを上げるコツを教してもらったりしながら、自分自身の成長につなげようとする生徒の姿が見られた。また、夢の実現に向けての講演会では、高橋選手の言葉を通して、生徒はこれまでの自分自身を振り返りながら、今後の生活に対しての決意を、高橋選手へのメッセージとして、自分の言葉で表現することができた。生徒一人一人が、これからの時代を自分の力でたくましく生きるために必要なことを考える機会とすることができた。

鎌倉台中学校 名古屋の伝統 つなごう未来へ ～愛する町と生徒を絞りで一つに～



体育大会での法被着



本校の体育大会では、緑区の伝統文化である「有松絞り」を用いた法被を着用してソーラン節を披露する機会があるが、その法被がどのように制作されているかを知っている生徒は少ない。そこで、有松絞りをを用いた作品づくりを生徒が体験することで、故郷を愛する心を育てることを目指した。

代表生徒が地域の工房を訪問し、有松絞りをを用いた旗の制作に取り組んだ。布の縛り方や縛る強さによって浮かび上がる柄が全く異なることを学び、「世界に一つだけの鎌倉台の旗」に愛着を感じていた。現在、旗は校内でのあいさつ運動にも使用している。地域で活躍する講師と直接関わり、地域文化のよさを知ること、伝統を守り抜こうとする意識を高めたり、生徒と地域との絆を深めたりすることができた。

高針台中学校 高中クリーンフェス ～地域貢献と小・中・地域交流～



事前学習の講演会



交流しながら清掃
する様子

本校では、中学2年生がブロックの小学6年生や、地域の方たちと交流をしながら、地域の公園を清掃する「高中クリーンフェス」を行った。事前学習では、地域貢献に力を入れている企業の方をお招きし、講演を聞くことで『地域をきれいにする』『人に優しくする』意義を見出させることができた。

当日は、各小学校へ移動し、小学6年生が運営するアイスブレイクを通して、異校種・異世代交流をした。公園に移動してからは、地域の方たちに温かく見守られながら、中学生が中心となってゴミ拾いをした。中学生からは移動中に「横断歩道を渡るよ」、清掃中には「たくさん拾ったね」など、小学生に対する自発的な声掛けが聞こえてきた。今回の活動で、地域の一員としての自覚を高めたり、新入生を温かく迎え入れる雰囲気を醸成したりすることができた。

藤森中学校 「共に認め合い、つながり、豊かな学びのある学校づくり」



講演会の様子

本校の努力点は「共に認め合い、つながり、豊かな学びのある学校づくり」である。そのテーマに迫るためには、生徒の心理的安全性を高めることがその基盤となると考えた。INGキャンペーン活動の一環としていじめの未然防止に取り組み、「誰もが過ごしやすい」藤森中学校を目指した。

弁護士を各学級に招き、いじめについて実際の対応事例の話を聞き、その事例を基に、それぞれの場面の心情や望ましい行動について個人やグループで考え、考えたことや意見を出し合う活動を行った。また、事前に心理的安全性の基盤ともなる自己肯定感について考える機会を設けた。専門家による自己肯定感についての講演と、実際のいじめ事例を基にした話や活動を通じて、当事者意識を高め、行動することの重要性を理解させることができたと考える。

上社中学校 諦めない心・夢を実現する力・命の尊さ



講演する井谷選手



井谷選手と競争

本校では、以前より「命のあさがお運動」や「命のスローガン作り」を通して、命の尊さを学ぶ機会を積極的に取り入れるとともに、キャリア教育にも力を入れている。今年度は「命のスローガンづくり」をするにあたり、生徒会執行部が中心となり、「INGキャンペーン」とコラボレーションした活動を計画し、実行した。また、本校の特徴である生命の尊さとキャリア教育を融合させた活動として「命の講演会」を開催した。講師には、今夏パリパラリンピックに陸上競技 200mの日本代表として出場した、井谷俊介選手を招き、「夢の力」をテーマに講演していただいた。講演会后、井谷選手と生徒たちが一緒に走る体験を通して、生命の尊さと諦めないことの大切さについて実感することができた。

久方中学校 自分らしく生きるためには？



生徒の意見を基に



生徒と対話しながら

本校では、「意志をもって行動しよう！」を合言葉に、生徒が「自分らしく生きる」力を身に付けられるように、発達段階に応じて「仲間づくり」や「自己理解」、「職業・進路」などキャリア教育の年間計画を立て、学習や行事に取り組んでいる。その一環として、本校卒業生の元アナウンサー佐藤啓さんを招き、「自分らしく生きる」ためのヒントとして、1年生は「仲間づくりの第一歩」、2年生は「職場体験への第一歩」、3年生は「未来への第一歩」というキャリア段階に応じたテーマで、講演会を開催した。「いま、この瞬間、みんなでいることを大切にしてほしい」など、熱のこもった佐藤さんのお話を聴き、生徒は、「自分の武器は何だろう？」「挨拶は、自分の勇気を表している」「やりたい仕事が見付かるまで無理に決めなくてもいいかも」など、今の自分にできることを前向きに捉え、行動するようになった。

平針中学校 様々な意見からより良い考えを導き出す学級・学年集団づくり



チームビルディングの様子



キャンプファイヤーの様子

本校では、実行委員による行事運営や、生徒主体の学級・学年運営に取り組ませることで、生徒の自律を促すことに力を入れている。

1年生では、校外学習に向けて、チームビルディングの手法を用いて、3～5人で構成したグループ内で出た意見に対して、良さや問題点を挙げながら、新しい考えをつくり上げていった。また、各自の意見をホワイトボードに示して可視化し、似通った部分を整理しながら、課題解決に取り組んだ。

他にも、生徒会や学級委員会が中心となり、スポーツ祭などの学校行事を企画・運営した。稲武野外学習に向けては、実行委員による活発な話し合いにより、キャンプファイヤーやハイキングなどのイベントの内容が以前よりもブラッシュアップされ、生徒がより主体的に取り組む姿が見られた。

山田高等学校 AED特別講習会を通して、命の尊さを感じる

～救急救命の基礎を習得することで、主体的に行動できる人材の育成を目指して～



特別講習会の様子

本校は、ユネスコスクール加盟校として命・心・環境を大切にする「人間教育」に取り組んでいる。AED特別講習会は、「保健」の授業で心肺蘇生法についての基礎的な知識・技能を学習した上で、さらに実践的な救急救命の技能を身に付けることを希望する生徒を対象に実施している。講習会で使用するAEDトレーナーを増やし小グループに分かれて開催することで、生徒同士の絆が一層深まった。また、講習会を通して、緊急時には居合わせた人々と協働して対処することの必要性を学ぶことができた。講習会の最終段階では、「普通救命講習Ⅰ」の実技試験を実施し、合格した生徒には修了証を発行することで、緊急事態に直面しても臆することなく主体的に行動できる人材を育成することができた。

工業高等学校夜間定時制 高めよう防災意識と省エネルギー！

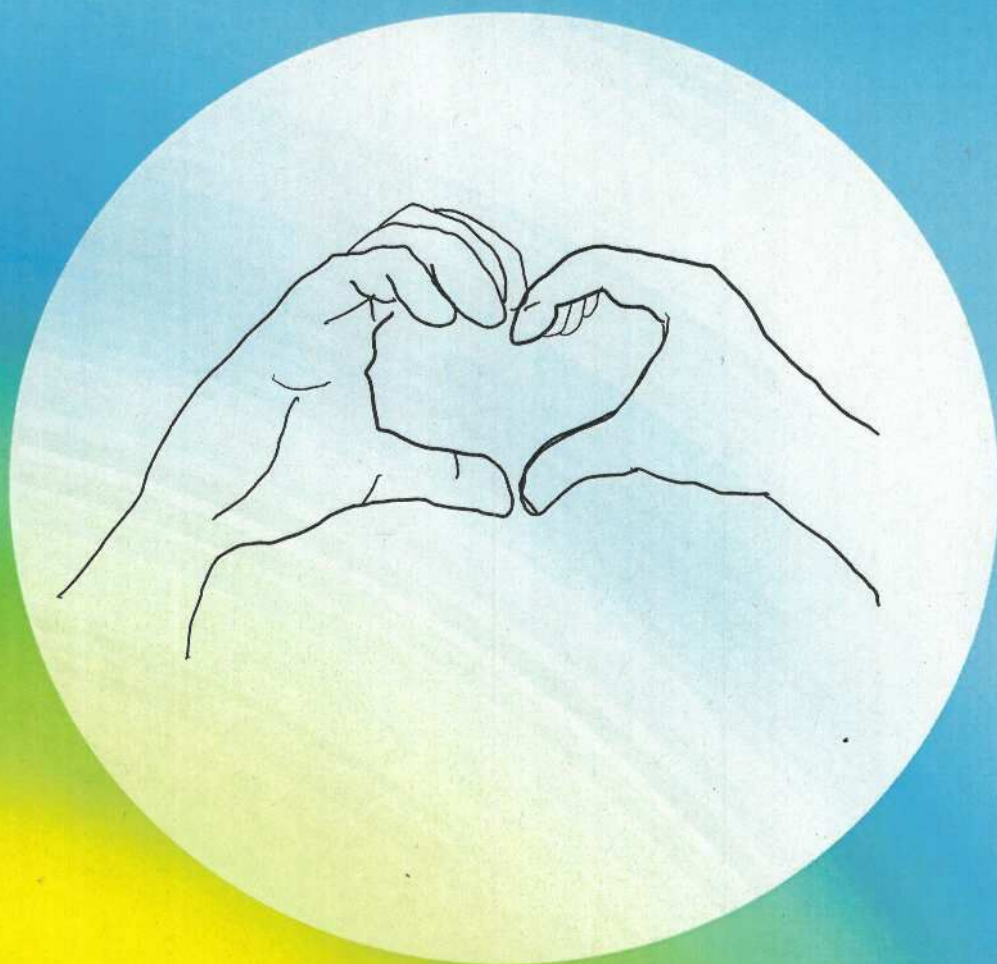
～蓄光テープを利用した災害時の避難経路の確保～



作業の様子

本校は夜間定時制であり、日が沈んだ時間帯にも授業が行われている。地震等の災害により停電が起きると、真っ暗な中、2階にあるホームルーム教室から校舎外へ、必ず階段を利用して避難することになる。そこで、太陽光や蛍光灯の光を蓄える省エネルギーな「蓄光テープ」を廊下や階段に貼り付けることにより、災害時に安心・安全に避難できるようにしたいと考えた。

生徒たちは、自らが避難するときのことを想定し、安心・安全に避難するために最適な蓄光テープの選定や避難誘導が視覚的・直感的に分かりやすいデザイン、貼り付け場所について、議論を重ねた。生徒同士で協力して作業を進めることを通して、災害時にも必要な仲間の絆を深めることができた。



なごやの学校 2024

令和7年3月

名古屋市教育委員会

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

Tel (052) 972-3232 [義務教育課]